

国内外の産業動物衛生情報

2013年1月～12月

年月日	国内	海外
2013.12.31	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区(肝属地区で6農場追加) ・一貫:11農場、・繁殖:8農場、・肥育:14農場 南薩地区 ・肥育:1農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 累計35例 	
2013.12.30	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生 串間市2例、都城市4例 累計6例 	
2013.12.27	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区 ・一貫:8農場、・繁殖:7農場、・肥育:12農場 南薩地区 ・肥育:1農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 累計29例 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 貴州省黔南(けんなん)プイ族ミャオ族自治州 ・動物種:家きん 31,567羽飼養, 9,300羽発症, 8,500羽死亡, 23,067羽淘汰(あひる 4,569羽, がちょう 248羽を含む)※感染動物は全て鶏【対応】 淘汰, 消毒。
2013.12.24		<ul style="list-style-type: none"> ●南アフリカ(低病原性鳥インフルエンザ H7N1)アウトブレイク 10月20日発生、疑い 675羽。
2013.12.23		<ul style="list-style-type: none"> ●南アフリカ(低病原性鳥インフルエンザ H7N7)2013年7月から継続中。10月8日発生。1,005羽疑い。
2013.12.21		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 河北省 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2型)発生、4千羽の家きん死亡。125,700羽殺処理。
2013.12.20	<ul style="list-style-type: none"> ●宮崎県 3例目 (12/7発生) 豚流行性下痢(PED) ・発生概要 ・農場の飼養状況:一貫経営(母豚51頭、雄豚7頭、子豚75頭、肥育193頭) ・発生頭数:母豚;2頭 ・確認までの経緯: 12/7から黄色水様性下痢発症豚増加 12/19、家保立入、採材と検査。 ・症状:母豚、肥育豚、子豚の下痢 ・繁殖豚2頭から PEDV 遺伝子検出 	
2013.12.19		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 シンセン市、38歳男性、重症。
2013.12.18	<ul style="list-style-type: none"> ●鹿児島県での豚流行性下痢(PED) 【発生農場】 ・一貫:7農場 ・繁殖:4農場 ・肥育:6農場 ・合計:17農場 ※3農場追加(繁殖2, 一貫1) 【発生地域】 ・肝属地区 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 広東省で3例目。62歳男性、重篤。 ●中国 新型鳥インフル H10N8型で死亡 江西省南昌、H10N8型の鳥インフルエンザに感染した女性(73)死亡(世界初報告)。11月30日に深刻な肺炎で入院し、呼吸器系の障害とショック症状で死亡。女性は家きん類の生鳥市場を訪れていたという。女性と接触のあった人々からは、病状は確認されていない。人か

	<p>【遺伝子解析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 3, 4例目の株で実施 ・沖縄県, 茨城県で検出された株とごく近縁 ・近年アジア諸国やアメリカで流行している株と近縁 ・過去に国内で流行した株とは明確に区別 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒(車両, 畜舎, 手指消毒) <p>※消毒薬は通常の薬剤で効果あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母猪へのワクチン接種 ・飼養衛生管理基準の徹底 <p>【国内での発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月: 沖縄県 ・11月: 茨城県(2例) ・12月: 宮崎県(2例) 	<p>ら人への感染拡大の危険性は低いとの見解。H7N9型では、中国本土で少なくとも139人感染、45人死亡。台湾や香港での人感染も確認。</p> <p>The Lancet In Press, Corrected Proof, Available online 5 February 2014. Clinical and epidemiological characteristics of a fatal case of avian influenza A H10N8 virus infection: a descriptive study.</p> <p>HaiYing Chen, et al. www.chp.gov.hk/en/view_content/24244.html</p>
2013.12.16		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 広東省、65歳女性、重篤。
2013.12.15		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 広東省、39歳男性、重症。
2013.12.11		●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 広東省 65歳女性、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2013_12_17_influenza/en/index.html
2013.12.9		●オランダ 低病原性鳥インフルエンザ H5N3 11,698羽殺処理。
2013.12.7	<ul style="list-style-type: none"> ●宮崎県 2例目(12/7発生) 豚流行性下痢(PED) ・発生概要 ・農場の飼養状況: 一貫経営(母猪67頭、雄豚9頭、子豚350頭、肥育450頭) ・発生頭数: 子豚3頭 ・確認までの経緯: 12/7から母猪1頭が食欲不振、嘔吐。 12/8分娩舎7分房の子豚(2日齢~様々)下痢、嘔吐 ・症状: 哺乳豚の嘔吐・下痢 	
2013.12.6		●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 広東省 39歳男性、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2013_12_17_influenza/en/index.html
2013.12.3		●香港 H7N9 鳥インフルエンザ 80歳男性、入院、安定。 http://www.who.int/csr/don/2013_12_10/en/index.html ●台湾 低病原性鳥インフルエンザ H5N3 アウトブレイク確認、10,000羽疑い。
2013.12.2	●熊本 豚伝染性胃腸炎 人吉市	●香港 鳥インフルエンザ H7N9型 香港で初めて。家政婦(36)。深圳から帰る。11月21日発症、重篤。 ●ドイツ 低病原性鳥インフルエンザ H5N3型 バーデン・ヴュルテンベルク州で同じく28羽殺処理。
2013.11.29	<ul style="list-style-type: none"> ●茨城県 2例目 豚流行性下痢(PED) ・発生概要 ・農場の飼養状況: 母猪200頭一貫経営 ・発生頭数: 種豚; 4頭、母猪; 34頭、子豚; 180頭(うち死亡頭数約103頭) (4) 確認までの経緯: 	●ベトナム北部 口蹄疫 最近、家畜伝染病の口蹄疫の流行拡大。 クアンナム省、ハティン省など北部5省で牛や豚など約1300個体の家畜が口蹄疫に感染。 ●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 浙江省 30歳男性、重篤。

	<p>11月下旬から分娩舎で哺乳豚が下痢。 <遺伝子解析>茨城県1例目および沖縄県分離された株と近縁</p>	<p>http://www.who.int/csr/don/2013_12_10/en/index.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1型)発生 重慶、湖南、広西 生鳥市場において発生
<p>2013.11.28</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 浙江省で H7N9 の新規患者。57 歳男性、11 月 27 日陽性診断、重篤。 ●ポルトガル 低病原性鳥インフルエンザ(H7型(亜型不明)) アレンテージョ地方 63 羽疑い。
<p>2013.11.27</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●オランダ 低病原性鳥インフルエンザ(H5N3型) フローニンゲン州 ●ロシア 口蹄疫(A型) アムール州(中国との国境付近)の農村において、牛、続発。 ●韓国 豚コレラ 慶尚南道泗川市 豚(繁殖母豚 300 頭) 症例数:4 <ul style="list-style-type: none"> ・殺処分及び移動制限 ・近隣8農家 5,870 頭における予防的ワクチン接種(接種完了) ・韓国では、済州島を除き、全国的にワクチン接種が実施。 ・発生農場におけるワクチン接種の有無は未確認。 <p>★韓国では、4年ぶりの発生。</p>
<p>2013.11.21</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●香港 H7N9 鳥インフルエンザ 36 歳女性、重篤。 <p>http://www.who.int/csr/don/2013_12_10/en/index.html</p>
<p>2013.11.20</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 浙江省 57 歳男性、重篤。 <p>http://www.who.int/csr/don/2013_12_10/en/index.html</p>
<p>2013.11.18</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●茨城県 豚流行性下痢(PED) ・発生概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) 農場の所在地:茨城県県央部 (2) 農場の飼養状況:1665 頭(種豚 15 頭、母豚 150 頭、子豚 1500 頭) (3) 発生頭数:種豚;2頭、母豚;21頭、子豚;165頭(うち死亡頭数 約131頭) (4) 確認までの経緯: 11 月 9 日 農場において嘔吐および下痢を示す母豚が確認。発症母豚由来哺乳豚で、生後2日以降に嘔吐および下痢、死亡確認。 11 月 11 日 家畜保健衛生所に通報、立入検査、病性鑑定を実施。 11 月 18 日 免疫組織化学検査で陽性。豚流行性下痢と決定。 (5) 病性鑑定結果 <ul style="list-style-type: none"> <臨床症状>下痢、嘔吐、食欲不振、母豚の泌乳停止、哺乳豚の低体温 <剖検所見>胃の膨満、未消化凝固乳滞留、小腸における壁のひ薄化および未消化物を多く含む黄色水様性腸内容物の充満、大腸における壁のひ薄化および緑黄色内容物の充満 <精密検査>空回腸および結腸内容物の PCR:PED 陽性、 	

	<p>(空腸を用いた TGE の FA:陰性、ロタウイルス簡易検査:陰性)</p> <p><遺伝子解析>(動物衛生研究所で実施)11月18日、先般沖縄県で分離された株と遺伝学的に完全に一致しないもののごく近縁であり、沖縄株と同様過去の国内分離株とは明確に区分されたものの、近年米国およびアジア諸国で流行している株と近縁であることが判明。</p> <p>(6)防疫措置等:消毒(車両、畜舎、手指消毒)の実施、母豚へのワクチン接種実施、飼養衛生管理基準の徹底を指導。感染経路等の疫学調査を実施中。周辺農場には異常なし。</p> <p>・茨城県発生事例における PED ウイルス遺伝子解析結果について</p> <p>茨城県での発生事例例の材料を用いて PED ウイルス遺伝子解析を行ったところ、ウイルス遺伝子は先般の沖縄県での発生事例の株とは完全に一致しないもののごく近縁であった。また、沖縄株同様、2006年以降にアジア諸国および米国で流行している株と遺伝学的に近縁であり、1980年代および1990年代の国内流行時に分離された株とは明確に区別された。</p>	
2013.11.17		●オランダ 低病原性鳥インフルエンザ H5N3 9301 羽殺処理。
2013.11.14		●台湾 H6N1 鳥インフルエンザウイルス 2013年5月、台湾の20歳女性がインフルエンザ様疾患患者から H6N1 鳥インフルエンザウイルスが検出された。人感染(初) Sung-Hsi Wei, et al: The Lancet Respiratory Medicine, early online publication, 14 Nov 2013 Human infection with avian influenza A H6N1 virus: an epidemiological analysis.
2013.11.12		●ネパール(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 2013年8月14日~9月14日の期間9か所でアウトブレイク確認。 2012年10月14日から国内で継続中で、これまでに85のアウトブレイクが確認されている。
		●米国 ウェストナイル熱: CDC からの公式発表 2013年11月12日現在、全米で2,215例。93名死亡。(10月末から半月でおよそ2倍)
2013.11.11	<p>●熊本 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 水俣市の男性(84)が、マダニを介して感染する重症熱性血小板減少症候群ウイルスに感染し、死亡。国内の死者は19人目</p> <p>●北海道カルガモ、鳥インフル「陰性」 帯広市、5日、鳥インフルエンザの簡易検査陽性反応例について、確定検査の結果、高病原性鳥インフルエンザウイルスは不検出。</p>	
2013.11.8		●カンボジア H5N1 鳥インフルエンザ カンポート州在住10歳女児男児、11月7日入院、重篤。今年24例目 http://www.globaltimes.cn/content/823534.shtml#.Un5SYZROoa7
2013.11.7		●米 低病原性鳥インフルエンザの発生 ペンシルバニア州 低病原性鳥インフルエンザ発生
2013.11.6	<p>●北海道カルガモ、鳥インフル「陽性」 帯広市、カルガモ2/25羽で、鳥インフルエンザウイルスの簡易検査で陽性確認。病原性調査中。</p>	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 型 WHO 中国浙江省の女性(64)が H7N9 型鳥フル感染。中国本土の感染者は139人(うち45人死亡)。

		<p>http://www.who.int/csr/don/2013_11_06/en/index.html</p> <p>●中国、鳥インフルエンザH7N9 伝染病指定 衛生当局は鳥インフルエンザウイルス(H7N9型)を法定伝染病に指定。1日から。甲類、乙類、丙類の3つうち、乙類に指定。感染者が確認された場合、24時間以内に報告義務。</p>
2013.11.5		<p>●中国 鳥インフルH7N9型 広東省東莞市、3歳男児感染。病状安定。</p>
2013.11.4		<p>●台湾低病原性鳥インフルエンザ(H5N3) 花蓮県</p> <p>●台湾(低病原性鳥インフルエンザ H5N2 サーベイランス結果、アヒル農場で感染確認。</p> <p>●カンボジア H5N1AI プルサット州在住2歳女児、10/17発症、25日入院、26日死亡。今年23例目</p> <p>http://www.cdc-moh.gov.kh/PressRelease/43-Pressrelease_Eg.pdf</p>
2013.11.1		<p>●フランス 猫1匹が狂犬病陽性。フランスは2001年にキツネから狂犬病を根絶し、狂犬病清浄国宣言した。それ以降2008年にモロッコから輸入した犬一匹以外、これまで狂犬病が確認されたことはなかった。</p> <p>http://www.bbc.co.uk/news/world-europe-24773304</p>
2013.10.31		<p>●中国 H7N9 鳥インフルエンザ アウトブレイク直後の2013年4月に、上海、杭州、湖州、そして南京市にある生鳥マーケットを閉鎖した。その閉鎖に伴うヒト感染数の減少率は4市でいずれも97~99%と算出された。</p> <p>Hongjie Yu, et al. The Lancet Available online 31 October 2013. Effect of closure of live poultry markets on poultry-to-person transmission of avian influenza A H7N9 virus: an ecological study.</p>
2013.10.30	<p>●大分県 牛白血病を発症しにくい遺伝子候補種雄育成成功 農林水産研究指導センター畜産研究部は、牛白血病を発症しにくい遺伝子を持ち、子牛にも同じ性質の遺伝子を引き継げる黒毛和種の候補種雄牛の育成に成功した。</p>	<p>●カンボジア H5N1 鳥インフルエンザ バットンバン州6歳女児、10/14発症、19日入院、安定。今年22例目</p> <p>http://www.cdc-moh.gov.kh/PressRelease/43-Pressrelease_Eg.pdf</p>
2013.10.29		<p>●韓国・梁山で鳥インフルエンザ陽性反応 慶尚南道梁山市で、21日に採取した種類不明の野生の鳥類の糞2点から鳥インフルエンザ(AI)の陽性反応が出た。2013年初。病原性の有無判定中。</p>
2013.10.25		<p>●オーストラリア(高病原性H7N2) 養鶏場でアウトブレイク、620羽死亡。</p>
2013.10.23		<p>●中国 H7N9型感染 新たに1人 浙江省嘉興市、農民男性(67)がH7N9型鳥インフルエンザに感染確認。16日発病、重症。H7N9型感染者、中国本土計137人(45人死亡)。</p> <p>http://www.who.int/csr/don/2013_10_24a/en/index.html</p>
2013.10.18		<p>●台湾 鳥インフルエンザ H5N2型 花蓮県 発生確認。</p>

2013.10.15		●中国 鳥インフルエンザ A(H7N9) 浙江省紹興市、男性(35)H7N9型鳥インフルエンザ感染確認。重症。中国の感染確認は8月10日の広東省以来約2カ月ぶり。本土の感染者136人(うち45人死亡)。
2013.10.14		●オーストラリア(高病原性H7N2)養鶏場でアウトブレイク、18,000羽死亡、417,000羽殺処理。
2013.10.10		●ペルー、コウモリからインフルエンザ H18N11 発見 RT-PCR で探索し、新しい亜型のインフルエンザウイルス H18N11 発見。遺伝子の相同性・系統解析で決定した。HA 抗体を作り H17、H1、H5 と交差反応しないことを確認。PLoS Pathog 9(10): e1003657. New World Bats Harbor Diverse Influenza A Viruses. Tong S, et al. (2013) http://www.plospathogens.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.ppat.1003657
2013.10.9		●WHO 報告 中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS)感染例 計 136 人。
2013.10.8		●オーストラリア HPAI(H7N2型)発生 ニューサウスウェールズ州、採卵鶏農場、18,000羽の採卵鶏死亡
2013.10.7	●農水省 野生鳥獣の家畜伝染病検査 2014年度から、口蹄疫など家畜伝染病の発生を防ぐため、病原を媒介する恐れがある野生動物の疾病検査を行う。2014年度予算概算要求で「戦略的監視・診断体制整備推進事業」の中の「野生動物監視体制整備事業」。野生動物は鹿、イノシシを中心にキジ、ハトなど。	●ベトナム HPAI(H5N1型)発生。農場でアウトブレイク確認。370羽死亡、805羽殺処理。 ●ベトナム HPAI(H5N1型)発生。北西部ホアビン省、約1,200羽の家きんが死亡・淘汰
2013.10.2		●狂犬病 年6万人死亡 世界で毎年6万人が狂犬病で死亡発表(FAO、WHO、OIE)。 ●ロシア 口蹄疫(A型) ザバイカリエ地方 牛発症(中国との国境付近)
2013.9.30	●日本養豚大学校開校 養豚経営に特化した初めての教育機関が麻布大学で開校。授業(講義と実習)開始。養豚農場後継者や従業員36人が受講。	
2013.9.28		●ロシア 口蹄疫(A型) ザバイカリエ地方 牛・豚飼養農場(中国との国境付近)
2013.9.24		●9/24 米国 ウェストナイル熱 現在計、1,135例。44名死亡。 (8月20日まで症例数497例。この1か月で2.3倍増) http://www.cdc.gov/westnile/statsMaps/preliminaryMapsData/histatedate.html
2013.9.22		●ロシア 口蹄疫(A型) アムール州牛飼養農場(中国との国境付近)
2013.9.21		●ロシア 口蹄疫(A型) ザバイカリエ地方 牛発症(中国との国境付近)
2013.9.20		●台湾 狂犬病 全国調査 イタチアナグマ131匹、ジャコウネズミ1匹、子犬1匹からウイルス遺伝子検出。
2013.9.19		●カンボジア H5N1鳥インフルエンザ感染者 Takeo の5歳少女は入院し、安定。Kampot

		の2歳少女は9月18日死亡。(2013年:20人の感染確認、そのうち11人死亡)
2013.9.18		<ul style="list-style-type: none"> ●台湾 狂犬病 台東、男性1人がイタチアナグマ1匹に咬まれ、暴露後ワクチンとヒト免疫グロブリンを接種 ●モンゴル 口蹄疫(A型) ドルノド県、牛飼養農場、口蹄疫(A型)発生
2013.9.17		<ul style="list-style-type: none"> ●口蹄疫 各国の対策(農水省家畜衛生週報から抜粋) ★中国:中国農業部「2013年國家動物疫病強制免疫計畫」施行通知(2013.2.25) I対応 ①検査 特に飼育密度が高い地域、種畜場、家畜市場、と畜場重点的に実施 ②ワクチン接種を確実にする。 ③行動における監視 ④違法行為の取締 IIA型 FMD ワクチン計画 ①全地域→種雄牛および乳牛 ②広西省、雲南省、チベット自治区、ウイグル地区→全ての牛および羊※口蹄疫発生時の緊急ワクチン接種については、感染地域やリスクのある地域全ての感受性の家畜に対し、追加ワクチン接種を実施し、国境外での発生に対しては、国境線の30km以内の全て感染しやすい家畜(1ヶ月以内に接種されてものを除く)に追加ワクチンを打つ。 ★ロシア:ロシア連邦研究所動物衛生センターとロシア連邦動植物検疫監督局 I 緩衝地帯(極東ロシアからコーカサス地方の国境地域) ①ワクチン投与 ②重点モニタリング ★カザフスタン 発生時の緊急ワクチン接種 6/10 牛 6,429頭、緬山羊 11,142頭 ★モンゴル バヤン・ウルギー県発生時の緊急ワクチン接種 8/20 牛 131,829頭、羊 1,059,228頭、山羊 890,178頭
2013.9.10		●台湾 狂犬病 東部の6週間齢飼いかい犬がイタチアナグマに咬まれて発症。
2013.9.9		●台湾(低病原性鳥インフルエンザ H5N2)アヒル農家でアウトブレイク
2013.9.4	<ul style="list-style-type: none"> ●沖縄県、豚流行性下痢(PED)発生 1. 豚流行性下痢(沖縄県) 【発生概要】 ・動物種:豚 ・飼養頭数:種雄豚6頭、繁殖母豚80頭、哺乳豚155頭、子豚250頭 ・発生日:2013年9月2日~16日 ・発生頭数:哺乳豚155頭 うち約75頭死亡 【経緯】 ・9月2日~4日、農場において嘔吐及び下痢を呈する母豚が2頭発生。その後、哺乳豚に嘔吐・黄色下痢が発生し、9月16日までに哺乳豚約50頭が死亡。 	●イタリア(高病原性鳥インフルエンザ H7N7)12羽死亡2羽殺処理。

	<ul style="list-style-type: none"> ・10月1日に免疫組織化学検査にて豚流行性下痢と決定。 【症状等】 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床症状:黄色水様性下痢,嘔吐,食欲不振 ・剖検所見:胃の膨満,小腸壁のひ薄化 【対応】 <ul style="list-style-type: none"> ・消毒(車両,畜舎,分娩豚房毎の手指消毒)等 ・母豚へのワクチン接種 <p>★周辺農場及び関連農場に異常なし。疫学調査を実施中。</p>	
2013.9.3	<ul style="list-style-type: none"> ●宮崎のブロイラー種鶏場監視プログラムが終了 <p>2013年6月に宮崎のブロイラー種鶏場でモニタリング検査で鳥インフルエンザ抗体陽性が確認され、国内初の「農場監視プログラム」が実施された。9月3日に陰性確認、農場監視プログラム終了。</p> <p>モニター家きんを合計120羽配置(6月5日)し、臨床検査、血清抗体検査及びウイルス分離検査を合計4回実施し、すべて陰性確認。</p>	
2013.9.2	<p>鳥インフルエンザ H7N9 厚生労働省、ワクチン開発方針</p>	
2013.8.28		<ul style="list-style-type: none"> ●ロシア 口蹄疫発生(A型) 極東ロシアアムール州ブラコヴェシチェンスク市 牛
2013.8.26	<ul style="list-style-type: none"> ●群馬県 榛名湖で15日死亡コイ1匹がコイヘルペスウイルス(KHV)陽性確認。県内水面漁場管理委員会は、同湖をコイの持ち出し禁止水域に指定。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国 A型口蹄疫 チベット自治区ナクチュ地区、牛、A型口蹄疫発生 <p>[チベット自治区における口蹄疫の発生状況:計13件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月:1件(O型・牛) ・6月:1件(O型・牛) ・4月:1件(A型・牛) ・7月:2件(A型・牛および豚、O型・牛) ・5月:4件(A型・牛) ・8月:4件(A型・牛(3件)、O型・牛および羊/山羊) <p>【概要】 (ナクチュ地区:ディル県恰則郷)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生日:2013年8月10日 ・病原:口蹄疫ウイルス(血清型:A型) ※発症原因:不明 ・患畜概要:牛(飼育頭数7頭・症例数7頭・死亡数0頭・淘汰数不明・と畜数不明) <p>(ナクチュ地区:ナクチュ県ナクチュ鎮)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生日:2013年8月19日 ・病原:口蹄疫ウイルス(血清型:A型) ※発症原因:不明 ・患畜概要:牛(飼育頭数388頭・症例数99頭・死亡数0頭・淘汰数388頭・と畜数0頭)
2013.8.25	<ul style="list-style-type: none"> ●2010年の口蹄疫で殺処分された牛や豚の埋却地を農地に再生 <p>取組みが本格始動。宮崎県は今年度中に60ha(全体90ha)の造成を目指し、2015年度には全ての工事を終える予定。</p>	
2013.8.22		<ul style="list-style-type: none"> ●中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルス MERS ウイルスが、サウジアラビアの感染者の自宅近くで採取されたコウモリの便から検出(アルジャズィーラ)。当該ウイルスと、最初の人の感染例であるサウジの患者から検出されたウイルスの遺伝子一致。
2013.8.21		<ul style="list-style-type: none"> ●イタリア HPAI(H7N7型) エミリア・ロマーニャ州フェラーラ県 Portmaggioreの農場の七面鳥飼養農場 続発

		<ul style="list-style-type: none"> •OIE への報告日:2013年8月23日 今回の発生でのN亜型及び病原性は確認中 •動物種:家さん •飼養羽数:19,850 •症例数:19,850 •死亡数:1,300 •淘汰数:0(淘汰予定) •初発の農場から3.5Kmの地点にある七面鳥農場 •8月15日に報告されたフェラーラ県 Ostellato における初発の後に実施されたモニタリング活動により確認された。 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13959 •感染源:不明。調査中 •8月19日の初発後の最初のモニタリング検査では陰性であったが、2回目の検査により確認された 【対応】 •隔離, 淘汰 •移動制限, 施設の消毒
2013.8.20	<ul style="list-style-type: none"> ●豚の飼養標準改訂「中央畜産会」 豚の成長過程や生産量に応じた適正な養分要求量などを示す『日本飼養標準・豚(2013年版)』発行。 主な改定点は ①子豚、肥育豚、繁殖雌豚のエネルギーとアミノ酸要求量の見直し ②11年度施行の新しい家畜伝染病予防法に対応して「バイオセキュリティ」と「同法改正のポイント」の項目の追加 ③「飼料の公定規格」の項目の追加・・・など。 ●畜産飼料用稲の刈り取り 東京電力福島第一原発事故で一部が避難指示区域となっている田村市都路町の5戸の畜産農家グループ「MKFカンパニー」が育てている畜産飼料用稲の刈り取り開始。作業では、まだ穂が固まる前の状態の稲について、放射性セシウムが出ていくとされる地表約15センチより上の部分を、茎も葉も実も一緒に専用の収穫機で刈り取り、300kgのロール状(直径約1m)に加工。さらに別の機械でラッピング(密封)。約1か月で「稲発酵粗飼料」となる。その他、販売予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イタリア HPAI(H7N7型) エミリア・ロマーニャ州ボローニャ県 Mordano の採卵鶏農場、高病原性鳥インフルエンザ(H7N7型)続発 •OIE への報告日:2013年8月21日 •血清型:H7N7(高病原性) •動物種:家さん •飼養羽数:584,900 •症例数:1 •死亡数:0 •淘汰数:0(淘汰予定) 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13955 【疫学情報】 •感染源:不明。調査中 •8月15日に報告されたフェラーラ県における初発後に実施されたモニタリング検査による摘発 •初発の農場と同じ会社に属する採卵鶏農場 【対応】 •隔離, 淘汰 •移動制限, 施設の消毒
2013.8.19		<ul style="list-style-type: none"> ●8/2-19 メキシコ(高病原性H7N3)2件のアウトブレイク。5羽殺処理 ●中国 口蹄疫(A型) チベット自治区、牛飼養農場で発生 •OIE への報告日:2013年8月27日 (発生場所(2))チベット自治区ナクチュ地区ナクチュ県ナクチュ鎮の農場 •発生日:2013年8月19日 •動物種:牛 •飼養羽数:388・症例数:99 •死亡数:0・淘汰数:388 •感染源:不明、調査中 •全ての分離されたウイルス系統は SEA97 G2

		<p>系統に属する 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13981 【診断】 ELISA, 遺伝子配列, RT-PCR:陽性 【対応】 ・淘汰, 隔離, 国内における移動制限 ・施設の消毒実施</p>
2013.8.18		<p>●ミツバチ 蜂群崩壊症候群 農薬「ネオニコチノイド」要因説浮。 蜂群崩壊症候群とは、働き蜂が幼虫や女王蜂を残したまま単に戻らなくなる。1990年代以降世界各地頻発。2007年までに北半球のミツバチの4分の1が消失模様。 原因疑いとして、農薬ネオニコチノイド。 フランスでは2006年からネオニコチノイド系農薬一部規制。2013年5月にはEUもネオニコチノイド系農薬3種について12月から2年間使用禁止。</p>
2013.8.16		<p>●ロシア 口蹄疫(A型) 【発生概要】 ・発生場所:極東連邦管区アムール州 Tambovskiy Rayon, Krasnoe の村 ・OIE への報告日:2013年8月19日 ・動物種:牛, 豚 ・飼養羽数:56, 125 ・症例数:3, 7 ・死亡数:0, 0 ・淘汰数:0, 0 ・感染源:不明, 調査中 ・発生場所は中国とロシアの国境付近であり, 口蹄疫ワクチン接種を行う緩衝地域内 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13942 【診断】 RT-PCR:陽性 【対応】 ・淘汰, 隔離 ・施設の消毒実施 ・ワクチン接種実施予定</p>
2013.8.13		<p>●中国 口蹄疫(O型) チベット自治区チャムド地区、牛および羊／山羊 【概要】 ・発生日:2013年8月5日 ・発生場所:チベット自治区チャムド地区マルカム県 ・病原:口蹄疫ウイルス(血清型:O型) ※発症原因:不明 ・患者概要:牛(飼育頭数51頭・症例数14頭・死亡数0頭・淘汰数51頭・と畜数0頭) 羊／山羊(飼育頭数6頭・症例数0頭・死亡数0頭・淘汰数6頭・と畜数0頭) [チベット自治区における口蹄疫の発生状況:計11件] ・2月:1件(O型・牛) ・6月:1件(O型・牛)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・4月:1件(A型・牛) ・7月:2件(A型・牛および豚、O型・牛) ・5月:4件(A型・牛) ・8月:2件(A型・牛、O型・牛および羊/山羊) <p>●カンボジア 鳥インフル感染 16人 2013年で16人目の鳥インフルエンザウイルス(H5N1型)の感染者確認。カンダル州の5歳の女兒で、重体。感染者総計37人、うち死者28人。</p>
2013.8.12		<p>●カンボジア 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)</p> <p>【発生概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OIE への報告日:2013年8月13日 ・動物種:家きん(裏庭飼育) ・飼養羽数:2,000 ・症例数:1,346 ・死亡数:1,346 ・淘汰数:654 <p>【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13939</p> <p>【診断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床症状:あり ・リアルタイムPCR:陽性 <p>【疫学情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染源:不明。調査中 ・2013年8月10日, DamnakDangkor 村の7歳の女兒の H5N1 感染の通報を受け, 現地調査に向かったところ当該家きんでの発生を摘発。
2013.8.10		<p>●イタリア HPAI(H7) エミリア・ロマーニャ州、採卵鶏農場発生 128,000羽疑い、4,000羽死亡。</p> <p>●オマーン MERSV ラクダ感染 MERS の抗体がオマーンのラクダの血清に検出。</p> <p>●中国 口蹄疫(A型) チベット自治区、牛飼養農場で発生 (発生場所(1))チベット自治区ナクチュ地区デイル県恰則郷の農場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物種:牛 ・飼養頭数:7 ・症例数:7 ・死亡数:0 ・感染源:不明, 調査中 ・全ての分離されたウイルス系統は SEA97 G2 系統に属する <p>【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13981</p> <p>【診断】ELISA, 遺伝子配列, RT-PCR:陽性</p> <p>【対応】・淘汰, 隔離, 国内における移動制限・施設の消毒実施</p> <p>●中国 広東省 初の鳥インフル H7N9 感染確認。感染女性(51)は省東部の惠州市で家きんのと畜に従事。</p>
2013.8.9		<p>●ネパール(高病原性 H5N1)7月26日~8月09日 アウトブレイク 10件。</p>

		<p>●中国 H7N9 型「人から人」確認 中国江蘇省疾病予防コントロールセンター、英医学誌「ブリティッシュ・メディカル・ジャーナル」発表。 H7N9 型鳥インフルエンザに感染し 5 月に死亡した同省無錫市の親子、ウイルスが父親から娘に伝染した。H7N9 型の「人・人」感染は、上海で死亡した親子と夫婦の 2 例でも疑われている。</p>
2013.8.8	<p>●「H7N9」遺伝子実験開始 東大ら H7N9 型鳥インフルエンザウイルスの遺伝子操作実験開始。英ネイチャーと米サイエンスの二大科学誌に同時発表。</p>	<p>●ロシア 口蹄疫発生 (A 型) 極東ロシアアムール州ブラコヴェシチェンスク市 牛</p>
2013.8.5	<p>●エゾシカ肉普及 北海道庁 新検査体制 食肉業者の自主検査に獣医師らが病気の有無などのチェックに加わる仕組みを検討。 (例案 1)と畜検査経験獣医師が月 1 回、道内の大手事業者 9 社でつくる「エゾシカ食肉事業協同組合」の食肉処理場を見回り、安全性の確認方法などを指導。 (例案 2)巡回日以外は事業者が肉の確認をするが、異常が疑われる場合は画像をネットで獣医師に送信して相談。 (例案 3)エゾシカは病理学の治験が少ないため、道内の獣医系大学からも支援を受ける。</p>	<p>●中国 口蹄疫 (A 型) チベット自治区シガツェ地区ラチェ県曲瑪郷村 牛・飼育頭数:413・症例数:20 ・死亡数:0 ・淘汰数:413 【感染源】・不明。調査中 【診断】・ELISA、RT-PCR、遺伝子配列確認いずれも陽性 【対応】・淘汰、隔離、施設の消毒、移動制限・ワクチン接種なし</p> <p>●中国 口蹄疫 (O 型) チベット自治区チャムド地区マルカム県 Randui 村 牛、羊/山羊・飼養羽数:51, 6 症例数:14, 0・死亡数:0, 0・淘汰数:51, 6 ・感染源:不明, 調査中 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13913 【診断】ELISA, 遺伝子配列, RT-PCR:いずれも陽性 【対応】・淘汰, 隔離・施設の消毒実施</p>
2013.8.4		<p>●NZ 乳製品 食中毒の痕跡 乳業最大フォンテラ社、同社の製品の一部からボツリヌス菌の痕跡が発見、対象製品回収。中国やロシア政府は、ニュージーランド産乳製品輸入禁止。7 月 31 日の検査で食中毒を起こすボツリヌス菌痕跡確認。対象のホエイたんぱく質は大半が出荷前。ニュージーランド政府によるとオーストラリア、中国、マレーシア、サウジアラビア、タイ、ベトナムに輸出され、日本は含まれていない。</p> <p>●中国 ボツリヌス菌 NZ 製乳原料から検出 ニュージーランド製の乳原料からボツリヌス菌検出。</p>
2013.8.2		<p>●マガモが鳥インフルエンザの保有宿主 マガモのゲノム塩基配列解読。鳥インフルエンザ感染に対するマガモの応答に影響する可能性がある遺伝的要因が同定。(ネイチャー・ジェネティクス電子版)</p> <p>●台湾 LPAI (H5N2 及び H5N3) 花蓮県、アヒル農場発生</p>
2013.7.31	<p>●マイコプラズマ 15 分診断 旭化成ファーマ:マイコプラズマ肺炎診断薬開発。抗原検出で診断→世界初採用。</p>	<p>●中国 H7N9 死者 44 人 中国本土、感染による死者は 44 人。感染者は 2 市 10 省で計 135 人</p>

		<p>●オランダ 低病原性 AI(H7 型(亜型は不明))発生。フリースラント州、家きん農場、9.043 処理</p> <p>●台湾 トガリネズミの狂犬病感染 トガリネズミの狂犬病感染を確認。狂犬病の拡大懸念。ペットへの予防接種増。 7 月 17 日、1959 年以降で初めてとなるイタチアナグマへの狂犬病感染例確認。イタチアナグマへの感染はそれ以降、少なくとも 18 件確認。</p>
2013.7.30		<p>●南アフリカ(低病原性 H7 亜型) 捕獲した野鳥 4 羽で RT-PCR 確認</p> <p>●インド HPAI(H5N1 型) チャッティースガル州、2 軒の家きん農場(獣医畜産大学、政府養鶏場) ・飼養羽数:2,149, 6,293・症例数:464, 3,600・死亡数:464, 2,392・感染源:不明, 調査中 ・半径 10 キロ圏内のサーベイランスを開始</p> <p>●メキシコ HPAI(H7N3) ハリスコ州サン・ファン・デ・ロス・ラゴスの農場 ・動物種:家きん・飼養羽数:359,343・症例数:不明・死亡数:0・淘汰数:0 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13891 【疫学情報】・感染源:野生種との接触 【対応】・隔離, 移動制限, 施設の消毒・ワクチン接種:グアナファト州の繁殖鶏及び採卵実用鶏の計 5,512,080 羽に対して実施。野生種との接触が感染源とされている。</p>
2013.7.25		<p>●南アフリカ(低病原性 H7N7)2013 年 5 月 01 日～5 月 31 日の期間に 6 件のアウトブレイク。9,374 羽感染疑い、死亡/殺処理なし</p>
2013.7.23	<p>山口県 SFTS 90 歳代の女性、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)で死亡。国内の感染確認は 32 人目。死者は 15 人目。</p>	<p>●南アフリカ(低病原性 H5N2) 商業用ダチョウ農場で 3 件のアウトブレイク。死亡なし。</p> <p>●ウェストナイル熱: CDC 全米で 31 例。3 名死亡。(2013 年 7 月 23 日現在) http://www.cdc.gov/westnile/statsMaps/preliminaryMapsData/histatedate.htm</p>
2013.7.22	<p>●宮崎県 SFTS 80 代の女性、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)で死亡。死者は 14 人目。</p>	<p>●中東 MERS の致死率 サウジアラビアの患者 47 人の調査から、MERS の致死率は 6 割、うち半数は発症から死亡までが 16.5 日以内。患者の平均年齢は 56 歳。発熱のほか、8 割以上が悪寒やせき、7 割以上が息苦しさ。致死率は 50 歳以下は 38%、60 歳以上は 75%。</p> <p>●中国 口蹄疫(O 型) チベット自治区、口蹄疫(O 型)発生。85 頭の牛淘汰。</p>
2013.7.20		<p>●中国 H7N9 河北省廊坊市の女性(61)が H7N9 鳥インフルエンザに感染。河北省での感染者は初めて。中国本土の感染者は 134 人、うち死者は 43 人。女性は 14 日に重い肺炎と診断され、18 日に北京の病院に移り、H7N9 型の感染が確認された。危篤状態。 http://www.who.int/csr/don/2013_07_20/en/index.html</p>

2013.7.17		<p>●台湾 狂犬病 野生イタチアナグマで発生。台湾からは 2012 年に犬が 713 匹、猫が 81 匹輸入されている。</p> <p>●WHO MERS 中東呼吸器症候群(MERS)について「現段階では、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態ではない」との見解公表。ただ、「深刻で重大な懸念」はあり、各国に引き続き警戒を求めた。MERS は 2012 年 9 月以降、計 82 人の感染確認、うち 45 人死亡。高致死率。感染者が一番多いのはサウジアラビア。</p>
2013.7.14		<p>●アラブ首長国連邦(UAE) MERS 82 歳の男性、MERS 感染、重篤。</p>
2013.7.12	<p>●岡山県 SFTS 80 代の女性、ウイルス性感染症(SFTS)で死亡。死亡は 13 人目。女性に海外渡航歴はなく、左足のくるぶしにダニによるものと思われる刺し口があった。</p>	
2013.7.11	<p>●東京大学医科学研究所 H7N9 型 世界的大流行を起こす可能性 英科学誌ネイチャー電子版。鳥インフルは通常、人から人へ感染しにくいですが、哺乳類のフェレットに H7N9 型を感染させる実験の結果、体内でウイルスが変化して、フェレット同士で空気感染するようになった。また、日本で採取した 500 人分に H7N9 型の増殖を抑える免疫物質(抗体)を持つ人はいないことを確認。</p>	
2013.7.7		<p>●サウジアラビア MERS 新たに 1 名の感染者。北東部 Hafr Al- Batin city の 56 歳女性で感染者と接触したヘルスケアワーカー。さらに以前から治療を受けていた患者の中で新たに 2 名死亡。2012 年 9 月から現在まで、80 人が確定診断、44 名死亡。</p>
2013.7.5		<p>●中国 H7N9 患者数:133 名(うち死者 43 名)</p> <p>●中国 口蹄疫(A 型)チベット自治区、口蹄疫(A 型)発生。牛、豚</p> <p>●サウジアラビア MERS 新たに 2 名の感染者。Riyadh 地区の 69 歳および 66 歳の男性。重篤で ICU で治療中。さらに以前から治療を受けていた 2 名の死亡。</p>
2013.7.4		<p>●モンゴル 口蹄疫(血清型は不明)バヤンウルギー県。牛・羊・山羊飼養農場。</p> <p>●中国 H7N9 新たに 1 名の H7N9 患者。15 歳男性、回復。これまでに確認された感染者は 133 人でそのうち死者は 43 名。</p>
2013.7.3		<p>●台湾(低病原性 H5N3)アヒル農場、1,672 羽疑似</p> <p>●中国 H7N9 感受性 Jiangfang Zhou, et al. "Biological features of novel avian influenza A (H7N9) virus." Nature Published online 03 July 2013. 中国で臨床分離された H7N9 AIV (SH1 および SH2 株)はトリ型とヒト型のどちらのタイプにも同程度に結合した。ウイルスが II 型肺細胞で増殖可能であることは、ヒトにおける症状の重症化と関連付けられ、気管でも増殖することからヒト-ヒト感染の可能性があることが示唆。</p>

2013.7.2		<ul style="list-style-type: none"> ●米国 ウェストナイル熱(CDC 公式発表)2013年7月2日現在、全米で10例。 ●カンボジア ヒト H5N1 感染 Kampot 地域の6歳女児が H5N1 AI 感染。6/24 発症、6/28 死亡。2013年に入って13人目の感染者で、死者は9人。
2013.7.1	<ul style="list-style-type: none"> ●BSE BSEの全頭検査終了。約12年続いてきた。48ヶ月超の牛の検査は継続。 ●熊本県 重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 天草市、女性(86)感染し、死亡。全国で26例目、死亡は12人目。 	<ul style="list-style-type: none"> ●米国 ウィスコンシン州、キジ飼養農場で、低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)の抗体陽性事例確認。
2013.6		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 H7N9 Human co-infection with novel avian influenza A H7N9 and influenza A H3N2 viruses in Jiangsu province, China. Yefei Zhu, et al., The Lancet Vol.381, 発熱等で4月26日入院した15歳男性(5月2日退院)の咽頭スワブサンプルを解析したところ、H7N9 鳥インフルエンザとともに中国国内で優勢的に流行している季節性インフルエンザ H3N2 ウイルスが混合感染していることが明らかとなった。
2013.6.28		<ul style="list-style-type: none"> ●ネパール(高病原性 H5N1)9件のアウトブレイク。4,495羽死亡、24,050羽殺処理。
2013.6.27	<ul style="list-style-type: none"> ●国産牛の BSE 全頭検査 今月終了 国産牛の BSE の全頭検査が今月末で一斉終了。7月以降の検査は国が義務付けた48ヶ月齢超のみで、全出荷数の2割弱。 	
2013.6.25	<ul style="list-style-type: none"> ●高知県 マダニ感染症死亡 マダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に県内の70代の男性が感染し、死亡。感染は全国で24例目、死亡は11人目。 	
2013.6.24		<ul style="list-style-type: none"> ●ロシア 口蹄疫発生 極東ロシアアムール州ブラコヴェシチェンスク市 牛
2013.6.23		<ul style="list-style-type: none"> ●ロシア 口蹄疫発生 極東ロシアアムール州ブラコヴェシチェンスク市 牛
2013.6.21		<ul style="list-style-type: none"> ●台湾 鳥インフル感染者 H6N1 女性(20)。H6N1型は鳥に対して低病原性。これまで鳥類の間での感染は確認されているが、人への感染確認は世界で初めて。女性は5/5の発症後、軽い肺炎を起こして入院、回復して11日に退院。その後、専門機関がウイルスを検査し、H6N1型への感染確認。女性は飲食店勤務で鳥類と接触しておらず、このところ台湾外へ渡航したことはない。女性と密接に接触した36人についても、感染は確認されていない。 ●インドネシア 2歳男児が H5N1 感染死亡。6月10日発症、18日入院、死亡。インドネシアの累計感染者数は193人、そのうち死者は161人。
2013.6.19		<ul style="list-style-type: none"> ●新種コロナ、人・人感染:中東呼吸器症候群 サウジアラビア保健省やカナダ・トロント大学などの国際チーム 中東を中心広がっている MERS(マーズ)コロナウイルスについて、サウジの病院で人から人

		への感染が起きたと発表。昨年9月以降、中東から欧州に拡大、計38人が死亡。
2013.6.14		●中国 H7N9 中国本土 132名の患者(39名死亡)
2013.6.12		<p>●メキシコ HPAI H7N3 Characterization of the 2012 Highly Pathogenic Avian Influenza H7N3 virus isolated from poultry in an outbreak in Mexico: Pathobiology and Vaccine Protection. Darrell R. Kapczynski, et al., J. Virol. 2012年、メキシコで高病原性鳥インフルエンザアウトブレイクが発生し、同年6月H7N3ウイルスであると同定された。今日に至るまで商業用養鶏場を中心に断続的にアウトブレイクが発生しており、総計2,200万羽の鳥が死に(殺処理も含む)、7億2千万ドルの損失が出ている。</p> <p>このメキシコ分離H7N3ウイルスの遺伝子は、北米の野鳥から分離されたものに近く、低病原性ウイルスが家禽の中で流行するうちに高病原性を獲得したのではないかと考えられている。本研究は、このメキシコH7N3ウイルス(A/Chicken/Jalisco/CPA1/2012)の病原性解析と、ワクチンの有効性を確かめたものである。ウイルス接種されたニワトリは接種4日後までに100%が死亡し、中には臨床症状を表す前に死んだものもいた(甚急性疾患、peracute disease)。ウイルス接種2日後に調べた全ての臓器(肺、脳、心臓、胸腺、筋肉)でウイルスの高増殖が確認された。ワクチンウイルスとして、米国及びメキシコで分離された低病原性鳥インフルエンザウイルスを用いた。用いたウイルスは次の5種で、H7N3 (Ck/NY/99)、H7N2 (Q/PA/98)、H7N3 (Tk/OR/71)、H7N3 (Tk/UT/95)、H7N3 (CT/MX/06)。このうち2つの七面鳥分離ウイルス(Tk/)は、家禽用H7ワクチンシードとしてUSDAから認可されている。Ck/NY/99、Tk/UT/95、Tk/OR/71でワクチンした後に高病原性ウイルスでチャレンジしたニワトリの中には、14日後までに死んだものはなかった。試したすべてのウイルスワクチンによって、HIタイターの顕著な増加、およびウイルス排出の減少が確認された。</p> <p>●ネパール HPAI H5N1 2013年5月31日～6月07日の期間に3件のアウトブレイク。410羽死亡、1,165羽殺処理。</p>
2013.6.11	<p>●宮崎県 H5亜型鳥インフルエンザの抗原に反応する抗体H5亜型鳥インフルエンザの抗原に反応する抗体が発見され、監視プログラムが適用されていた川南町の約2万羽の養鶏場について、6月5日からのモニター家きん検査前に実施した血清抗体検査、ウイルス分離検査は、すべて陰性。当該農場と疫学的に関連があると確認された7農場や、半径5キロメートル以内の区域にある周辺60農場のうち、空舎農場を除く34農場の血清抗体検査、ウイルス分離検査もすべて陰性。監視プログラム農場のモニター鶏の検査は4週間続けられる。</p>	<p>●スペイン 狂犬病3名の子供と一人の大人を襲ったピットブルが狂犬病感染と確認。イベリア半島ではおよそ40年ぶりの狂犬病発生。</p> <p>●フランス 中東呼吸器症候群(MERS) MERSコロナウイルスに感染した疑いがある2人の患者が発見。2人は男性。入院中。2人とも最近サウジアラビアに滞在。</p>

2013.6.10	<p>●愛媛県 重症熱性血小板減少症候群 3人が、マダニが媒介するウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群」を発症し、90代の女性1人が死亡。死者は国内で10人。</p>	
2013.6.9		●中国 口蹄疫発生 (A型) 雲南省デチェン・チベット族自治州 牛
2013.6.8		●中国 口蹄疫(O型)発生 チベット自治区 牛
2013.6.7	<p>●環境省 国内野鳥H7N9型陰性 国内のシギ・チドリ類やサギ類の野鳥からは、H7N9型鳥インフルエンザウイルスは検出陰性。4月下旬から5月下旬にかけて、生体捕獲によるスワブや糞便など338サンプルを採取して国立環境研究所で遺伝子検査を行なった。</p>	<p>●カザフスタン 口蹄疫発生 (A型)東カザフスタン州中国国境付近 牛</p> <p>●中国 H7N9 中国本土 132名の患者(38名死亡)</p>
2013.6.4	<p>●BSEの発生リスク 農水省がOIEからBSEの発生リスクが最も低い「清浄国」としての証明書を受け取る。</p>	
2013.6.3	<p>●宮崎県 鳥フル関連 川南町の養鶏場において、抗体検査でH5型の抗原に反応する抗体確認。鳥インフルエンザの臨床症状やウイルスは確認されていない。国の指針に基づき農場監視プログラムを実施し、当該農場における移動制限やモニタリング検査などを行う。</p> <p>1実施農場 児湯郡川南町 養鶏農場(飼養羽数 約2万羽)</p> <p>2主な措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該農場からの生きた家きん・家きん卵等の移動制限 ・当該農場を中心とした半径5km以内の区域にある農場への立入検査等 <p>★当該農場は、抗体陽性が確認された時点から、飼養家きんの移動を自粛。</p> <p>★遺伝子検査やウイルス分離検査の結果から、現在までウイルス自体は確認されておらず臨床症状も確認されていない。</p>	●カザフスタン 口蹄疫発生 (A型) 東カザフスタン州中国国境付近 牛
2013.6.2		●イタリアで 中東呼吸器症候群(MERS) MERS感染者がイタリアで新たに2人確認。いずれも同国初の感染者。2歳女兒と42歳の女性。
2013.6.1		<p>●米国 低病原性 H7N7 アーカンソー州。死亡なし、9,800羽殺処理。</p> <p>●南アフリカ LPAI H7N7 2013年2月28日～4月11日の期間に8件のアウトブレイク。9,647羽感染疑い、死亡/殺処理なし。</p>
2013.5.31	<p>●牛の飼養頭数 前年比で2.5%減少し、402万6,220頭。</p>	<p>●オランダ ユトレヒト H7N1</p> <p>●デンマーク ヴィボー H7</p>
2013.5.30		<p>●中国 A型口蹄疫発生 チベット自治区の牛飼養農場、A型口蹄疫が発生</p> <p>【発生概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生数:1件 ・発生場所:チベット自治区ラサ市ダムシユン県 Qudengyangge 村 ・発生日:2013年5月30日(OIEへの報告日:2013年5月30日) ・血清型:A型 ・動物種:牛 ・飼育頭数:70・症例数:8

		<p>・死亡数:0 ・淘汰数:70 ・診断:ウイルス分離、ELISA、PCR いずれも陽性 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13517 本報告は、2013年4月22日付のチベット自治区における発生の続報。</p> <p>●台湾 口蹄疫 【発生概要】 ・発生数:1件 ・発生場所:金門島金門県金湖鎮 ・発生日:2013年5月16日(OIEへの報告日:2013年5月30日) ・血清型:O型 ・動物種:豚 ・飼育頭数:1,094・症例数:6 ・死亡数:0 ・淘汰数:0 ・診断:ELISA 定期的サーベイランスでの摘発抗体陽性を確認。ウイルス分離RT-PCRについては陰性 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=13518</p>
2013.5.29	<p>●BSE 最も安全ランク格上げ OIEが日本をBSEのリスクに関して最も安全な「無視できるリスクの国」に格上げ。日本はBSE未発生の豪州などと同等になる。国産牛肉の輸出拡大と全頭BSE検査廃止へ。国内の最後のBSE感染牛は2002年1月生まれ。</p>	<p>●米国 BSE OIEが米国をBSEの発生リスクが最も低い「清浄国」に認定。日本は、2013年2月に米国産牛肉の輸入対象を「20ヶ月以下」から「30ヶ月以下」に拡大。さらなる規制緩和検討か。</p> <p>●中国 H7N9 中国で感染拡大した鳥インフルエンザウイルスに抗ウイルス薬タミフルが効かない耐性ウイルスが確認(2/14人)。上海公衆衛生臨床センター</p> <p>●中国 H7N9 中国本土 132名の患者(37名死亡)</p>
2013.5.28	<p>家畜伝染病を検知 小型チップ(1cm²) ルネサスエレクトロニクスは家畜伝染病を検知する半導体の基礎技術を開発。家畜の背にセンサー付小型チップを付け、動作の異常や体温を分析して無線で通知。 ●O157感染5年で4割減 国立感染症研究所感染症疫学センター調査 有症感染者 2007年 2857人 2008年 2574人 2009年 2388人 2010年 2486人 2011年 1856人 2012年 1770人</p>	
2013.5.27	<p>高知県 マダニ媒介性疾患 60代男性がマダニ媒介性疾患に感染し、2012年11月に死亡確認。死亡は全国9人目。</p>	<p>●台湾 口蹄疫(O型) 台中市の豚飼養農場において、口蹄疫(O型)発生。</p> <p>●サウジアラビア 新型コロナウイルス コロナウイルスの新種「中東呼吸器症候群コロナウイルス」(マーズ(MERS)コロナウイルス)に感染した81才の女性死亡。サウジアラビアでの死者は18人目。</p>

2013.5.24

●中国 A 型口蹄疫発生
チベット自治区、2013 年 4 月以降 4 例目
(牛)。中国全土、A 型口蹄疫発生(2013 年 10
例目)。
中国農業部防疫対応
(1)疫病発生調査の強化
全国各地における飼育密度の高い地域や種
畜場、家畜市場、と殺場などにおける A 型
口蹄疫の確認検査の強化。
(2)監視および疫学調査の強化
農業部所属機関は、各地方政府の関係機関と
連携して、A 型口蹄疫の監視と疫学調査を強
化。監視は、感染リスクが高いと思われる地域
を中心に対象範囲を拡大し、報告や警報を強
化。
(3)ワクチン接種の強化
国家動物感染症強制ワクチン接種計画に基づ
き、種雄牛および乳牛へのワクチン接種を強
化。国境地帯にある省(自治区)は、各地の牛
および羊への接種を強化し、免疫効果の監視
測定を厳格化。外部からの感染症の侵入を防
止。
(4)流通段階における検疫管理の強化
動物衛生検査所における道路上の検疫の徹
底。省を跨がる家畜移動への検疫と管理を強
化。感染した動物や畜産物、病死或いは死因
不明の動物の不適切な処理に対する取締りの
強化。
(5)緊急対応能力の強化
応急措置や訓練の強化。突発的な疫病発生
への対処能力の向上。
(2013 年の A 型口蹄疫発生状況)
・牛:9 例 3 月:1 例(青海省)
4 月:2 例(ウイグル自治区、チベット自治区)
5 月:6 例(ウイグル自治区(2 例)、チベット自
治区(3 例)、青海省)
・豚:1 例 2 月:1 例 広東省
【概要】
・発生日:2013 年 5 月 24 日
・発生場所:チベット自治区林芝市
・病原:口蹄疫ウイルス(血清型:A 型) ※
発症原因:不明
・患者概要:牛(飼育頭数 207 頭・発生頭数 51
頭・死亡数 0 頭・淘汰数 207 頭・と畜数 0 頭

2013.5.23

●重症熱性血小板減少症候群ウイルス 検出
ウイルス性感染症「重症熱性血小板減少症候群」に感染した
山口県の 60 代女性からされたマダニから、SFTS の原因ウイ
ルスが検出。国内初。
●松阪牛 マカオに輸出
「松阪牛」1 頭分のサーロインとリブローズ計 45.2 キロがマカオ
に初輸出。

●中国 H5N9 中国上海由来 H7N9 インフルエ
ンザウイルス (A/Shanghai/2/2013 (SH2)) の感
染性、病原性をフェレットおよびブタで検証し
た。ウイルス接種したフェレットの症状は軽症で
体重減少も見られず、パンデミックインフルエン
ザ (A/California/07/2009 (CA07)) を接種した場
合とほとんど変わらなかった。ウイルス排出は
接種 1 日後から 7 日間に渡って見られ、発症
よりも前にウイルス排出されていた。直接接触
による感染は実験した全頭で見られた。飛沫
感染実験では、3 頭中 1 頭が発症し、残り 2 頭
ではウイルス排出も症状も見られなかった。同
様の実験をブタでも行った。ウイルス接種によ
る症状はいずれも軽症であった。直接および

		<p>飛沫感染実験では、いずれの場合においてもブタではウイルス排出、発症は見られなかった。直接接触させたブタ(4頭)のうち1頭のみ抗体陽転が見られた。ブタはSH2ウイルスに感染するが、他の動物に感染させることはないことが示された。(Science Published Online May 23 2013. Infectivity, Transmission, and Pathology of Human H7N9 Influenza in Ferrets and Pigs. H. Zhu, et al.)</p>
2013.5.22		<p>●中国 H5N9 上海市、北京市、安徽省、江蘇省、浙江省、河南省、山東省、江西省、福建省、湖南省及び台湾の2市8省1地域、131名患者(うち36名死亡)</p> <p>http://www.chinacdc.cn/en/research_5311/H7N9update/201305/t20130522_81115.html</p>
2013.5.21	<p>●BSE 全頭検査 国産牛のBSEの全頭検査について44都道府県と31市のうち、9割以上が7月から中止する意向。BSE検査義務の対象は7月に30ヶ月齢超から48ヶ月超に引き上げ。48ヶ月超の牛肉はほとんど流通していない。厚労省は検査の補助金も7月に打ち切る予定。</p>	<p>●中国 H5N9 人-人感染 注意継続 WHOと中国政府 ジュネーブで開催中のWHO総会鳥インフルエンザウイルス(H7N9型)について「人-人感染」について引き続き注意が必要強調。</p> <p>●中国 H5N9 中国、2013年5月8日～20日までに鳥インフルエンザ(H7N9型)の新たな感染なし。中国本土での感染者は死者36人を含む131人。</p>
2013.5.20		<p>●中国 口蹄疫(O型)発生 江蘇省常州市 豚飼養農場、口蹄疫(O型)発生、405頭豚淘汰</p> <p>●中国 H7N9 ニワトリ(1例)</p>
2013.5.18		<p>●台湾 H5N9 AIV感染(4月)患者からタミフルなどの抗ウイルス薬に耐性のあるウイルス検出。</p>
2013.5.17	<p>●熊本県 重症熱性血小板減少症候群ウイルス 荒尾市の女性(71)が感染。国内で15例目。</p>	<p>●フィリピン 狂犬病ウイルスの遺伝的多様性 フィリピン235株はAsian2aから派生、フィリピン株は3つのメジャーグループと2つのマイナーグループに分けられた(東北大学)。</p> <p>●中国 H5N9 上海市、北京市、安徽省、江蘇省、浙江省、河南省、山東省、江西省、福建省、湖南省及び台湾の2市8省1地域において、131名患者(うち35名死亡)</p> <p>http://www.who.int/csr/don/2013_05_17/en/index.html</p>
2013.5.16		<p>●台湾 O型口蹄疫発生 台湾金門県 豚飼養農場、O型口蹄疫が発生</p> <p>●台湾 鳥インフルエンザ H5N2</p>
2013.5.15		<p>●ドイツ ニーダーザクセン州 家きん飼養農場 LPAI(H7N7)発生、1万3千羽の家きんが淘汰</p> <p>●中国 A型口蹄疫発生 新疆ウイグル自治区ウルムチ市 牛飼養農場 A型口蹄疫発生、331頭牛淘汰</p>
2013.5.13		<p>●中国 鳥フル1件 チベット自治区ニンティ地区メンリン県 Qionglin村 H5N1(高病原性) 家きん ・飼育頭数:407 ・症例数:35・死亡数:35 ・淘汰数:372</p> <p>【OIEHP掲載ページリンク】</p> <p>http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/R</p>

		<p>eviwreport/Review?_page_refer=MapFullEventReport&reportid=13445</p>
2013.5.12		<p>●WHO 新型コロナウイルス 中東を中心に拡大。2012年9月以降、41人報告、うち20人死亡。欧州など計7ヶ国に拡大。WHOは、人々感染の可能性も指摘。2013年5月以降、24人報告。サウジアラビアの医療機関の集団感染など。2013年4月初めから22人が発症、9人死亡。患者と接触のあった医療従事者2人発症。入院同室の患者同士発症例(フランス)。</p> <p>●サウジアラビア 新型コロナウイルス WHO、一層の感染拡大が懸念。各国に監視強化を呼びかけ。「濃厚な接触がある場合、人から人へ感染するとの見方が強い」と指摘。</p>
2013.5.11		<p>●中国 AI(H7N9型)感染者(上海市内の女性(83)死亡。中国本土の感染者は131人(うち死者は33人)</p> <p>●カザフスタン共和国 口蹄疫発生 東カザフスタン州中国国境付近 牛</p>
2013.5.10	<p>●動物検疫所 オランダから日本向けに輸出ラクダ科動物の家畜衛生条件改正。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/guteirui.html</p>	<p>●中国 口蹄疫発生 チベット自治区 チベット自治区山南地区 ※発症原因:不明</p> <p>・患畜概要: 牛(飼育頭数25頭・発生頭数11頭・死亡数0頭・淘汰数25頭・と畜数0頭)豚(飼育頭数3頭・発生頭数0頭・死亡数0頭・淘汰数3頭・と畜数0頭)羊(飼育頭数28頭・発生頭数0頭・死亡数0頭・淘汰数28頭・と畜数0頭)</p>
2013.5.9		<p>●スペイン 低病原性鳥インフルエンザ(H7N1)発生 カタルーニャ州 家きん飼養農場発生、約1万2千羽家きんが死亡・淘汰</p>
2013.5.8		<p>●ドイツ ニーダーザクセン州、家きん農場で低病原性鳥インフルエンザ(H5N1)発生。</p> <p>●中国 H7N9型 ※鳥インフルエンザウイルス(H7N9型)、患者131人(内死者が32人)。 http://www.who.int/csr/don/2013_05_08/en/index.html</p> <p>※タミフル耐性症例4月2日発症の上海市の56歳男性。先にH7N9型に感染した妻(4月3日死亡)の看病をしており、発症当日からタミフルの投与を開始。しかし、急性肺障害を起こして、人工呼吸器を装着した。4月25日時点で患者は依然重体。</p> <p>●A型口蹄疫 新疆ウイグル自治区、牛・羊飼養農場でA型口蹄疫発生</p>
2013.5.7		<p>●中国 口蹄疫発生 青海省西寧市 血清型A ※発症原因:不明</p> <p>・患畜概要: 牛(飼育頭数439頭・発生頭数1頭・死亡数0頭・淘汰数439頭・と畜数0頭)羊(飼育頭数78頭・発生頭数0頭・死亡数0頭・淘汰数78頭・と畜数0頭)</p> <p>ウイグル自治区 新疆ウイグル自治区アクス地区 血清型A ※発症原因:不明</p> <p>・患畜概要: 牛(飼育頭数63頭・発生頭数16頭・死亡数0頭・淘汰数63頭・と畜数0頭)羊</p>

		(飼育頭数 176 頭・発生頭数 0 頭・死亡数 0 頭・淘汰数 176 頭・と畜数 0 頭)
2013.5.6	<p>●H7N9 型鳥インフルエンザ 「指定感染症」</p> <p>中国で感染が拡大している H7N9 型鳥インフルエンザを感染症法に基づく「指定感染症」とする政令を施行。空港や港で検査や診察での検疫法の政令も改正・施行。</p>	<p>●中国 H7N9 型 鳥インフルエンザウイルス (H7N9 型)、患者 130 人(内死者が 31 人)。</p> <p>●ベトナム 生鳥市場リスク解析 ベトナムの最も人口密度が高いハノイ市の生鳥市場と家禽数の多い農村地域である Bac Giang の生鳥市場の 2 地域にある 30 か所の生鳥市場の業者 561 人にインタビューした。このうち 200 人は複数の市場で仕事していた。この情報をもとに、162 の生鳥市場ネットワーク図を、業者の訪れる回数などを含めて作成した。それぞれのエリアにおいて、ほとんどの生鳥市場から往来がある”ハブ”と言える市場があることが示された。ベトナムでは H5N1 対策で生鳥市場の一時的閉鎖が実施されてきたが、守られずにいるケースが多い。今回明らかとなった”ハブ”となる市場を集中的に監視することで流行阻止につながると考えられた。</p> <p>Guillaume Fournie ら、PNAS Published online. Interventions for avian influenza A (H5N1) risk management in live bird market networks.</p>
2013.5.5		●中国 H7N9 型 広東省東莞市、家禽市場の鶏から鳥インフルエンザウイルス (H7N9 型) 検出。広東省初。
2013.5.4		●中国 口蹄疫 チベット自治区ラサ市、牛飼養農場で O 型口蹄疫発生
2013.5.2	<p>横浜市 カラス死骸</p> <p>横浜市中区繁華街で死亡したカラスのうち 2 羽から有機リン系農薬成分検出。農薬は畑や果樹園で殺虫剤として使われている「シアノホス」。</p>	<p>●中国 H7N9 型 鳥インフルエンザ (H7N9 型)、2 市 8 省、患者 128 人(内志望者 27 人)。</p> <p>●中国 チベット自治区ラサ市、牛飼養農場で A 型口蹄疫発生 牛(飼育頭数 527 頭・発生頭数 145 頭・死亡数 0 頭・淘汰数 527 頭・と畜数 0 頭)</p> <p>●狂犬病診断事 情 http://www.plosntds.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pntd.0002209 PubMed や Google などを用い、1990 年から 2012 年までに報告された狂犬病輸入例を検索し、60 例を抽出した。居住地は、半数 (30 例) はヨーロッパ、次いで北米 (13%)、アジア (11.7%) であった。多くの場合で見られた最大の問題は、診断されるのに要した時間である。入院から診断されるまでの平均日数は 7.7 日。診断が遅れた主な理由は、動物との接触歴が不明であった、ギランバレー症候群と誤診された (3 例)、居住地の病院で狂犬病の経験がなかった、症状が非典型だった、などであった。感染地域で暴露後ワクチンを接種したのは 5 例 (8.3%) のみで、帰国後の病院でも狂犬病の治療を全く受けられなかったケースが半数 (29 例、48.3%) だった。Philippe Carrara ら、PLOS Neglected Tropical Diseases. Imported Human Rabies Cases Worldwide, 1990-2012.</p>
2013.5.1		●中国 H7N9 型 中国本土の患者は 127 人 (26 人死亡)。患者数(死亡数): 上海:33 人(13

		<p>人)、江蘇省 27 人(6 人)、浙江省 46 人(6 人)、安徽省 4 人(1 人)、福建省 3 人、河南省 4 人、山東省 2 人、江西省 5 人、江西省 5 人、湖南省 2 人。中国本土と別に台湾 1 人 ※公開遺伝子データベース、Global Initiative on Sharing Avian Influenza Data (GISAID)からダウンロードしたインフルエンザウイルスのゲノム配列を遺伝子系統解析。中国で新たに発生した H7N9 ウイルスの遺伝子は、H7 は 2012 年アヒルから、N9 は 2011 年渡り鳥から、その他の内部遺伝子は、ニワトリで流行している H9N2 ウイルスの 2 系統から来たと推測された。</p> <p>Di Liu ら、The Lancet. Origin and diversity of novel avian influenza A H7N9 viruses causing human infection: phylogenetic, structural, and coalescent analyses.</p> <p>●サウジアラビア 新型コロナウイルス感染、数日間にサウジ東部で 5 人死亡、2 人集中治療受診。サウジ、ヨルダン、ドイツ、イギリスなどで 23 人患者、うち 16 人死亡。</p> <p>●3/1-5/1 メキシコ 高病原性鳥インフルエンザ(H7N3) 5 件 ・ハリスコ州(2 件)、グアナファト州(2 件)、プエブラ州(1 件)家きん 【発生状況】発生 5 件の合計・飼養羽数: 890,015・症例数:75,011(報告のあったもののみ) ・死亡数:40,010・淘汰数:850,005 【診断】・ウイルス分離:陽性 【感染源】・野生種との接触 【対策措置】・施設等の消毒,患畜の淘汰実施を予定。・ワクチン接種を実施(グアナファト州)</p>
2013.4.30		<p>●中国 H7N9 型 福建省福州市の男性(58)が H7N9 型鳥インフルエンザに感染。中国本土の患者は上海、北京の 2 市と 8 省の 127 人(24 人死亡)。</p> <p>●OIE と中国 鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型)食材市場で人に感染した可能性が高い。</p> <p>●ドイツ(低病原性 H5N1) 1 件のアウトブレイク発生。死亡なし、34,500 羽殺処理。</p>
2013.4.27		<p>●中国 鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型)が江蘇省南通市のレースバト飼育場から検出。</p>
2013.4.26	<p>●動検 オランダ及びフランス産牛肉の混載事例確認。対日輸出認定施設 (NL49EG,FR35.353.003,FR35.068.002)から日本向けに輸出される牛肉及び牛の内臓の輸入停止。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/nl_beef.pdf http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/fr_beef.pdf</p>	<p>●台湾 H7N9 型 53 歳台湾人男性の感染源 男性が中国滞在中の 4 月上旬に足を運んだ江蘇省蘇州のゴルフ場が「唯一、鶏などの鳥類との接触の可能性が疑われる場所」?</p>
2013.4.24	<p>●重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 2013 年は 3 名の患者(うち 2 名死亡)確認。 (発生年:2013 年 3 名、2012 年 7 名、2010 年 1 名、2005 年 2 名)(発生県:広島県 1 名、山口県 3 名、愛媛県 2 名、高知県 1 名、佐賀県 2 名、長崎県 2 名、宮崎県 1 名、鹿児島県 1</p>	<p>●WHO 中国の H7N9 型「現時点で人から人への感染があったとの結論を出す根拠はない」との見解。</p> <p>●台湾 H7N9 型 中国江蘇省から台湾に戻った男性(53)の鳥イ</p>

	<p>名)。SFTS は、2011 年に中国でウイルスが特定された新しいマダニ感染症。</p> <p>●厚生労働省 H7N9 型 新型インフルエンザに対応した新しい製法のワクチンが国内で初承認見通し。バクスターと武田薬品工業の 2 製品を了承。はサルの細胞使用で製造期間を大幅に短縮。</p>	<p>インフルエンザウイルス(H7N9 型)感染確認。発熱、呼吸困難などの症状深刻、治療中。 男性は江蘇省蘇州市で仕事を終え、9 日に上海経由で台湾に帰国。12 日に発熱などの症状を訴えて入院、24 日の再検査で確認。男性は蘇州と台湾の間を以前から行来。蘇州で家禽類とは非接触、生卵などを非摂取(本人談)。高血圧などの持病あり。 隔離治療し、接触のあった約 140 人の健康状態調査する。</p> <p>●中国 江蘇省 H7N9 型 江蘇省の感染者1人が新たに死亡。感染者は台湾を含め 110 人(うち死者 23 人)。</p> <p>●The New England Journal of Medicine Influenza A (H7N9) 中国の鳥インフルエンザ(H7N9)の感染者(82 人)の 77%(59 人)が発症前に、鶏(45 人)や飼育カモ(12 人)飼育バト(8 人)、豚(4 人)と接触。接触場所の 6 割以上は、生鳥市場。潜伏期間は約 6 日。41 人に抗ウイルス薬を使用、しかし発症 5 日を過ぎており、現在も重症。</p> <p>●中国 H7N9 型 2013 年 3 月 25 日から 4 月 17 日までの期間 中国全土で原因不明の肺炎で入院した(注) 664 名のうち、12.2%にあたる 81 人が H7N9 インフルエンザウイルス感染と診断された。インフルエンザ様疾患による外来患者 5,551 名においては、1 名のみ(0.02%)H7N9 陽性であった。両者を合わせた合計 82 名の H7N9 感染者についての臨床学・疫学的解析。情報が得られた 77 名のうち、77%は生きた動物との接触歴があった。17 名が死亡したが(21%)、発症から死亡までの日数の中央値は 11 日。2 つの家族クラスターが確認された。患者と接触した 1,689 人のうち 1,251 人についてモニタリングが可能となったが、呼吸器疾患を呈したのは 19 名で、いずれも H7N9 感染は確認されなかった。注:中国では 2004 年から原因不明肺炎の全国サーベイランスシステムを構築している。2013 年 4 月 3 日より H7N9 サーベイランスのためにこのシステムを強化した。Qun Li ら、The New England Journal of Medicine. Preliminary Report: Epidemiology of the Avian Influenza A (H7N9) Outbreak in China.</p> <p>●ドイツ(低病原性 H5N1)1 件のアウトブレイク発生。死亡なし、19,000 羽殺処理。</p>
2013.4.24	<p>●厚生労働省 H7N9 型 H7N9型の鳥インフルエンザウイルスを、「指定感染症」に指定決定。5月6日施行。この改正で、鳥インフルエンザA(H5N1)並みに入院措置や検疫対応が可能。</p>	
2013.4.23	<p>重症熱性血小板減少症候群(SFTS) 山口県、60代女性、SFTSを4月上旬に発症。国内13例目。</p>	<p>●中国 山東省、36歳の男性が鳥インフルエンザウイルス(H7N9型)感染。感染者は死者22人を含む109人。</p>
2013.4.22		<p>●中国 A型口蹄疫 チベット自治区シガチェ市。牛に口蹄疫、牛32頭、A型。牛156頭殺処分。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 H7N9 型 H7N9 鳥インフルエンザヒト感染確定は 104 例、70 人入院中、21 人死亡。 http://www.chinacdc.cn/en/research_5311/H7N9update/201304/t20130422_80316.html ●中国 H7N9 ハト(1 例)。340 羽殺処理。
2013.4.21	<ul style="list-style-type: none"> ●環境省 水質汚濁防止法 基準の強化 2013 年 7 月から、牛や豚などの畜舎から生じる排水中の硝酸性窒素と亜硝酸性窒素の暫定基準値を現行 900mg/L から同 700mg/L に強化。対象とする畜舎の面積は豚で 50m² 以上、牛で 200m² 以上、馬で 500m² 以上とし、全国で 3 万戸。基準の強化に向けて 5 月 20 日まで国民からの意見を募集(パブリックコメント)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国 浙江省、H7N9 型感染者が新たに 5 人確認。全体の感染者は死者 20 人を含め計 102 人。
2013.4.19	<ul style="list-style-type: none"> ●厚生労働省 中国から来航便搭乗者からの健康相談で、38 度以上の発熱と急性呼吸器症状が認められた場合、本人の連絡先等の把握や医療機関の受診勧奨等を実施。各医療機関でも、下記の患者を診察した場合は、保健所へ情報提供。 (情報提供を求める患者の要件) 38 度以上の発熱と急性呼吸器症状を呈し、臨床的又は放射線学的に肺病変が疑われる者で、発症前 10 日以内に中国に渡航又は居住していた者。 <鳥インフルエンザ A(H7N9)について> http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekakaku-kansenshou/infuleenza/h7n9.html < 疾病発生情報 (FORTH (厚生労働省検疫所)) > http://www.forth.go.jp/news/2013/04041512.html < 中国における鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルスによる感染事例に関するリスクアセスメントと対応 (国立感染症研究所) > http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flua-h7n9/2276-a-h7n9-niid/3477-riskassess-130418.html < Q&A (国立感染症研究所) > http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/a/flua-h7n9/2273-idsc/3394-h7n9-qa.html 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国 鳥インフルエンザウイルス A (H7N9) 上海市、北京市、安徽省、江蘇省、浙江省および河南省において、87 名患者、17 名死亡が確認。持続的なヒトからヒトへの感染は未確認。 ●中国 H7N9 型 ミネソタ大学 CIDRAP ①中国 H7N9 感染者の年齢中央値は 61.5 歳 (2-89 歳)。中国で 10 年間に報告された 45 人の H5N1 患者の年齢中央値は 27 歳。 ②中国での調査結果 1,000 以上の生鳥市場から得られた 48,000 余りのサンプルの 39 からウイルス検出。 ③H7N9 患者の 40%は明らかな家禽との接触歴がない。 http://epidemic.bio.ed.ac.uk/influenza_H7N9 ●北朝鮮 鳥インフルエンザウイルス (H5N1 型)に感染 1 件 平壤市 Tudan アヒル 164,000 ・感染源: 調査中。野生動物 【OIEHP 掲載ページリンク】 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/R_eviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=13447 ●韓国 (高病原性 H5N1) 1 件のアウトブレイク。アヒル 44,000 羽死亡、122,000 羽殺処理。
2013.4.18	<ul style="list-style-type: none"> ●環境省 H7N9 型 野鳥などを調査 中国から日本に渡ってくる可能性がある野鳥などを調査する。調査対象 シギ・チドリ類、サギ類とハト類。個体を捕獲し、喉頭スワブや糞を採取し、遺伝子検査する。 ●東京大とJST H7N9 型 鳥インフルエンザウイルス (H7N9 型) の感染力や増殖能力の研究開始。サル、フェレット、マウスへの感染実験。(1)空気感染(2)体内の増殖部位(3)変異を起こすかなどを検証。 ●北海道大 H7N9 型 ウイルスの感染力を弱める「モノクローナル抗体」研究。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国、H7N9 型 上海市で家族内に複数の鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型) 感染者 2 例判明。
2013.4.17		<ul style="list-style-type: none"> ●中国、H7N9 型 感染者 83 人、死者 17 人。 ●3/4-4/4 メキシコ H7N3 型 11 件のアウトブレイク発生。高病原性 H7N3。502 羽死亡。
2013.4.16	<ul style="list-style-type: none"> ●山口県、重症熱性血小板減少症候群 60 歳代の女性が、マダニを介して感染する重症熱性血小板減少症候群ウイルスに感染し、4 月上旬に死亡発表。 国内での感染確認は 12 人、死者 8 人。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国、H7N9 型 感染者 72 人、死者 14 人。江蘇省南京の野鳥のハトから AIV(H7N9) 検出。 ●中国、口蹄疫 (A 型) 新疆ウイグル自治区和田地区における牛飼養農場で発生

	<ul style="list-style-type: none"> ●中国、輸入稲わら等 家畜衛生条件を満たす加熱消毒施設が確認(3 施設) http://www.maff.go.jp/aqs/tetuzuki/product/87.html#cn ●タイ 輸出偶蹄類動物及び家さんの肉等加熱処理施設一覧更新。 (偶蹄類動物) http://www.maff.go.jp/aqs/tetuzuki/facility/pdf/heatlist-thailand.pdf (家さん) http://www.maff.go.jp/aqs/tetuzuki/product/pdf/th_hpchicken.pdf ●香港 輸出家さん卵の取扱施設一覧が更新 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/hk_egg_ex.pdf ●香港向け輸出される豚肉及び家さん肉の選定施設一覧更新。 	<ul style="list-style-type: none"> ●エジプト H5N1 型 ダカハリヤ県。男性 26 歳死亡。エジプトでの 2013 年の患者は計 3 名。
2013.4.15	<ul style="list-style-type: none"> ●環境省、新潟県 新潟県見附市の水田で回収され、AI陽性反応が出たオオハクチョウについて、北海道大学での確定検査の結果、ウイルスは分離されず陰性。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国、H7N9 型 感染者 64 人、死亡 14 人。 ●2/24-4/15 9 件のアウトブレイク発生。低病原性 H5N2。死亡なし、2,195 羽殺処理。
2013.4.13		<ul style="list-style-type: none"> ●中国、北京市で入院中の 7 歳の女兒が鳥インフルエンザ (H7N9 型) 感染。感染者 44 人、死者 11 人。
2013.4.12	<ul style="list-style-type: none"> ●厚生労働省、国立感染症研究所 中国当局から入手した鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型) 株について、タミフルやリレンザなど 4 種類の既存の抗インフルエンザ薬の効果を確認。 ●「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」 11 名(死亡者数 7 名) 患者確認、うち 1 名は今年発症。 (発生年:2013 年 1 名、2012 年 7 名、2010 年 1 名、2005 年 2 名) (発生県: 山口県 1 名、愛媛県 2 名、宮崎県 1 名、広島県 1 名、長崎県 2 名、高知県 1 名、佐賀県 2 名、鹿児島県 1 名) ●農林水産省動物検疫所 香港向け輸出家さん卵の取扱施設一覧が更新(追加施設: PEHOK006) http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/hk_egg_ex.pdf 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国 鳥インフルエンザウイルス A (H7N9) 上海市、安徽省、江蘇省、浙江省において、38 名の患者、うち 10 名が死亡確認。現在、ヒトからヒトへの感染は未確認。 ●中国 口蹄疫 チベット自治区シガツェ地区の牛農家において口蹄疫
2013.4.11		<ul style="list-style-type: none"> ●中国、H7N9 型、最初の感染 3 人の症状 せきや高熱に続き、急性呼吸不全を起こして死亡。黄紋筋融解症や脳症を併発も。 ●OIE、H7N9 型 鳥インフルエンザウイルス感染した鳥を見分けは困難。「家禽類に対する病原性は非常に低い、人に感染すれば重い症状をもたらす可能性がある」と指摘。 ●The New England Journal of Medicine Influenza A (H7N9) Rongbao Gao らは中国で最初にラボ確定診断された H7N9 鳥インフルエンザ患者 3 名についての、臨床・疫学・ウイルス学的情報をまとめた。 患者 1:上海、87 歳男、2 月 18 日発症、2 月 25 日入院。3 月 4 日死亡。初期症状は高熱と呼吸困難。基礎疾患は慢性閉塞性肺疾患と高血圧。ウイルスは A/Shanghai/1/2013 (H7N9)。 患者 2:上海の 27 歳男、2 月 27 日発症、3 月 4 日入院。3 月 10 日死亡。初期症状は高熱と咳。過去に B 型肝炎感染歴。ウイルスは

		<p>A/Shanghai/2/2013 (H7N9)。 患者 3:安徽省 35 歳女、3 月 13 日発症、3 月 19 日入院。4 月 9 日死亡。初期症状は高熱と咳。過去に B 型肝炎感染、鬱病歴、肥満。ウイルスは A/Anhui/1/2013 (H7N9)。</p> <p>●6/28-3/30 ネパール 高病原性 H5N1。9 件のアウトブレイク発生。3,982 羽死亡、6,919 羽殺処理。</p>
2013.4.10		<p>●中国 H7N9 型 ニワトリ、アヒル(計 8 例)</p> <p>●2012/2/12-2012/10/17 南アフリカ 低病原性 H5N2。7 件発生。死亡なし、1,379 羽殺処理。</p>
2013.4.9		<p>●ベトナム AIH5N1 型 ドンタップ省。4 歳男児死亡。</p>
2013.4.8	<p>●農林水産省動物検疫所 タイ向け輸出牛肉の認定処理施設(1施設)が追加。追加施設:TT-2 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/th_beef.pdf</p>	<p>●中国 口蹄疫 新疆ウイグル自治区和田地区の牛農家で発生</p>
2013.4.6		<p>●ロシア シベリア連邦管区ザバイカリエ地方で、牛、豚、羊、山羊飼養農場、牛、羊、山羊飼養農場および牛、豚、羊、山羊を飼養している3農場で口蹄疫(A型)の発生・発生数:3 件 ・発生場所:ザバイカリエ地方 Kalgansky 地区(1 件)およびザバイカリエ地方プリアングルスク地区(2 件) ・発生日:2013 年 3 月 25 日・28 日・OIE への報告日:2013 年 4 月 4 日 ・動物種 :牛・飼養頭数: 牛;909,2363,1127 豚;360,0,635 羊・山羊;891,9690,743 ・症例数 :283,382,19・死亡数 :0・淘汰数 :0</p>
2013.4.5	<p>●厚生労働省 牛海綿状脳症(BSE)の全頭検査について 10 年以上続いているBSEの全頭検査について、補助金を大幅に削減する方針。全頭検査は、国内1頭目のBSE感染牛が確認された2001年から続いてきた。感染牛の発見は09年1月が最後で、03年以降に生まれた牛では確認されていない。</p>	<p>●中国 鳥インフルエンザウイルス A (H7N9) 上海市、安徽省、江蘇省、浙江省において、14 名の患者、うち 6 名死亡確認。現、ヒトからヒトへの感染は未確認。・発生数:3 件 ・発生場所:上海市松江区(1 件)および上海市閔行区(2 件) ・OIE への報告日:2013 年 4 月 4 日・5 日(※新種のリスト疾病であるため報告) ・血清型 :H7N9(低病原性、臨床症状なし) ・動物種 :家さん 卸売市場の食用鳩、鳩、鶏、環境中サンプルにて陽性確認</p>
2013.4.4	<p>厚生労働省 牛海綿状脳症(BSE)の全頭検査について 10 年以上続いているBSEの全頭検査について、補助金を大幅に削減する方針。全頭検査は、国内1頭目のBSE感染牛が確認された2001年から続いてきた。感染牛の発見は09年1月が最後で、03年以降に生まれた牛では確認されていない。</p>	<p>●WHO、感染拡大警告 中国 鳥インフルエンザウイルス(H7N9型)の感染者 ・上海市、鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型)の感染者が新たに4人確認、うち2人は死亡。死者は計5人。 ・浙江省湖州市、男性1人の感染が判明。 ・感染者は死者も含め計14人。 ・世界保健機関(WHO)→ウイルスが人に感染しやすい形に変異した可能性あり。 ・中国農業省、上海市の農産物卸売市場のハトからH7N9型のウイルスを検出発表。感染者から検出したウイルスと同じ起源の可能性が高い。今回の感染で、鳥類からウイルスが見つかったのは初めて。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ●カンボジア カイバル・パクトウンクワ州で H5N1 鳥インフルエンザヒト感染。今年 10 人目。8 名死亡。 ●中国 H7N9 ※3 か所の生長市場でニワトリ 2 羽、および環境サンプルから確認。 ※2 か所の生鳥市場で各 1 羽確認。※生鳥市場でニワトリ 3 羽確認。89,864 羽殺処理。 ●中国 高病原性 H5N1 チベット。ニワトリ、ガチョウ。35 羽死亡、372 羽殺処理。
2013.4.3	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の牛由来の肉骨粉 食品安全委員会プリオン専門調査会 国内の牛由来の肉骨粉の肥料利用の再開を了承。、国民からの意見を募集し、省令の改正などの手続きを経て、肥料利用の再開を認める。国産肉骨粉の肥料利用の再開は、BSE が発生した2001年以来。 ●農林水産省動物検疫所 水産動物の輸入許可業務等に関する取扱要領に基づく具体的手続き改正。水産動物の管理施設確認要領が制定。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/96.html#SUISANDOUBUTU ●農林水産省動物検疫所 マカオ向け輸出牛肉の認定処理施設2施設追加。追加施設：IB-1、OI-1 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/mo_beef.pdf ●米国産トウモロコシの輸入量 歴史的な低水準に落ち込んでいる日本の米国産トウモロコシの輸入量が 2013 年度第 2 四半期(7-9 月期)に急回復する可能性。米国は世界最大のトウモロコシ生産・輸出国。日本は最大の輸入国。 	
2013.4.2	<ul style="list-style-type: none"> ●BSE 対策 内閣府の食品安全委員会 専門調査会 →国内の食肉検査を免除する牛の月齢を「48 ヶ月以下」に引き上げることを容認する評価書原案 ●厚労省 アイルランドとポーランド産の牛肉の輸入を解禁する方針。 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国江蘇省南京市鳥インフルエンザ(H7N9)で、の女性(45)ら 4 人が新たに感染。4 人重症で入院治療。感染者は計 7 人 http://www.who.int/csr/don/2013_04_03/en/index.html
2013.4.1	<ul style="list-style-type: none"> ●インフルエンザA型 新潟県見附市で発見・回収されたオオハクチョウ 1 羽の死骸からインフルエンザA型の陽性反応。確定検査中。 	
2013.3.31		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 の人感染 3 例。上海 2 例、安徽省 1 例。 http://www.who.int/csr/don/2013_04_01/en/index.html
2013.3.29	動物由来感染症ハンドブック 2013 を作成。(人と動物双方向に伝染する病気です。よって、だから、正しくは人獣共通感染症です。) http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/	
2013.3.28		<ul style="list-style-type: none"> ●OIE 鳥アウトブレイク情報(動物の感染情報) http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Diseaseinformation/WI ●ロシア連邦 シベリア連邦管区ザバイカリエ地方の牛等を飼養する農場において口蹄疫発
2013.3.27	<ul style="list-style-type: none"> ●香港向け 輸出する家きん卵の取扱施設一覧が更新 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/hk_egg_ex.pdf 	
2013.3.19		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 口蹄疫 青海省西寧市城北區の牛農家において口蹄疫(A型)

		●ロシア連邦 シベリア連邦管区ザバイカリエ地方の牛豚等を飼養する農場において口蹄疫(A型)発生
2013.3.17		●狂犬病 米国 狂犬病ウイルス感染した臓器移植を受けてレシピエントが死亡。ドナーおよび4名の移植患者と接触があったと思われるのは数百人になる。
2013.3.15	<p>●馬の家畜衛生条件 シンガポールから日本向けに輸出される馬の家畜衛生条件が締結。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/uma.html#import</p> <p>●ペットフード原料用鶏肝臓粉の家畜衛生条件 米国から日本に向けに輸出されるペットフード原料用鶏肝臓粉の家畜衛生条件が改正。 なお、当該家畜衛生条件に基づく指定製造施設の認定手続き等が完了するまでは輸入することができませんのでご注意ください。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/index.html#other</p>	
2013.3.14	<p>●山梨県新ブランド豚「フジザクラポーク」開発</p> <p>●厚生労働省 国内で確認された重症熱性血小板減少症候群の患者8人は50～80代。SFTSはマダニが媒介し、集団発生が起きた中国でも中高年が多い。8人は2005～12年に発症、5人死亡、3人回復。いずれも西日本在住。 高知県(80代の女性1名、平成24年4月に発症。) 佐賀県(80代の男性1名:平成22年8月に発症。マダニの咬着あり。) 長崎県(50代の男性1名:平成17年11月に発症。) 広島 2012年夏死亡 愛媛 2012年秋死亡 宮崎 2012年秋死亡 山口 2012年秋死亡 http://www.whaisin.mhlw.go.jp/mhlw/C/?c=185237 http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-iasrs/3321-pr3983.html</p>	
2013.3.13	<p>●自民党外交・経済連携本部TPP対策委員会 牛肉・豚肉・乳製品など重要5品目除外を決議、BSE基準も堅持</p> <p>●家畜市場、120年の歴史に幕 1894年から約120年続く福島県の石川家畜市場(同県石川町)が3月13日で閉鎖。</p>	
2013.3.12	<p>●農林水産省 中国・大連で2012年11月に口蹄疫が発生したことを受け、輸入を停止していた中国産稲わらについて、一部輸入を再開発表。2012年11月25日以前に加熱処理し、日本の港にあるものについては、ホルマリン燻蒸消毒した上で輸入検疫証明書を発行。</p>	●中国 上海市中心部を流れる黄浦江に大量の豚の死骸。計5916頭(13,000頭超とも)回収。一部は上流域にある浙江省嘉興市で飼育判明。
2013.3.11	<p>●牛肉の認定処理施設 日本からタイ向けに輸出される牛肉の認定処理施設(1施設)が追加。 追加施設:TT-1 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/th_beef.pdf</p> <p>●牛肉の認定処理施設 日本からマカオ向けに輸出される牛肉の認定処理施設(1施設)が追加。 追加施設:T-1 2 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/mo_beef.pdf</p>	

2013.3.9		<p>●ドイツ(低病原性 H5N1)2 件のアウトブレイク発生。3,978 羽死亡、10,216 羽殺処理。</p> <p>●バングラデシュ(高病原性 H5N1)2 件のアウトブレイク発生。3,978 羽死亡、10,216 羽殺処理。</p>
2013.3.8	<p>●厚生労働省 豚の生レバーなどを 2012 年 12 月時点で 14 都道府県の 80 店舗が客に提供。自治体の立入検査で判明し、加熱を指導。牛の生レバー提供が 2012 年 7 月に法律で禁止されて以降、法規制の対象外の豚の生レバーなどを提供する店が増加。</p>	<p>●ロシア連邦 シベリア連邦管区ザバイカリエ地方の牛豚等を飼養する農場において口蹄疫発生</p>
2013.2.26		<p>●南スーダン E 型肝炎が流行_ http://www.forth.go.jp/topics/2013/02261148.html</p>
2013.2.21	<p>●農林水産省 BSE に伴って停止していた肉骨粉の肥料利用の再開に向けて食品安全委員会に諮問する。農家や消費者の安心を醸成するため、と畜場で処理された健康な牛で特定部位を除く部分を肥料として使えるようにする方針。</p> <p>●農林水産省 OIE の科学委員会から、日本が BSE の発生リスクが最も低い「清浄国」に認定するための要件を満たしているとの通知があったと発表。5 月末の OIE 総会で認定される見通し。</p> <p>●牛肉の認定処理施設 日本からタイ向けに輸出される牛肉の認定処理施設(1施設)が追加。 追加施設:OI-1 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/th_beef.pdf</p>	
2013.2.20		<p>●米国 OIE の科学委員会が、米国の BSE 発生リスクの評価について、3 段階で最も安全な「無視できるリスクの国」への引き上げを勧告発表。5 月の OIE 総会で正式に承認される見通し。</p>
2013.2.19	<p>●豚肉等の加熱処理施設 フランスから日本向けに輸出される豚肉等の加熱処理施設(1施設)が認定。 ○家畜衛生条件 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/fr_hp_pork.pdf ○加熱処理施設一覧 http://www.maff.go.jp/aqs/tetuzuki/facility/pdf/fr_heated_pork.pdf</p>	<p>●カンボジア 3 件の H5N1 アウトブレイク確認。854 羽死亡、1,778 羽殺処理。</p>
2013.2.18		<p>●カンボジア、エジプト、中国 鳥インフルエンザの患者発生 http://www.forth.go.jp/topics/2013/02181451.html</p> <p>●中国 口蹄疫 A 型 広東省茂名市、養豚場 A 型発生</p> <p>●ドイツ 低病原性 H5N1 鳥インフルエンザアウトブレイク。死亡鶏なし、14,500 羽殺処理。</p>
2013.2.15		<p>●WHO 鳥インフルエンザ全世界感染・死者数更新。620 例、367 人死亡。 http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/en/ http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_15Feb13.pdf</p>

2013.2.12		●メキシコ H7N3 高病原性鳥インフルエンザ発生。5 か所の農場で、死亡合計 34,889 羽、殺処理 612,853 羽。
2013.2.11		●中国 米シカゴ州立大や中国の研究チーム(米科学アカデミー紀要電子版)各地の養豚場で薬剤耐性を持つ細菌などが広まっている。周辺の農地の土からも細菌の耐性遺伝子を確認。
2013.2.8		●カンボジア国保健省、WHO 合同発表 6 例目の H5N1 感染者。5 歳女児、1 月 25 日発症、2 月 7 日死亡。 http://www.cdc.gov/kh/PressRelease/27thpressreleaseAI_Engfinal.pdf
2013.2.7		●米国 低病原性鳥インフルエンザ ペンシルバニア州発生。同州から日本向けに輸出される家きん及び家きん肉等の輸入停止。 http://www.maff.go.jp/aqs/pdf/h250207us.pdf 農林水産省プレスリリース http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/130207.html
2013.2.5		●ネパール 5 件の H5N1 アウトブレイク確認。3,651 羽死亡、12,909 羽殺処理。
2013.2.3		●中国 貴陽市(Guiyang)の 2 名、21 歳女性および 31 歳男性、が H5N1 感染確認。重篤。 http://www.info.gov.hk/gia/general/201302/10/P201302100501.htm
2013.2.1	●豚肉及び家きん肉の選定施設 日本から香港向けに輸出される豚肉及び家きん肉の選定施設一覧が更新。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/hk_pork_poultry.pdf	●カンボジア保健省 5 例の H5N1 感染例。(1) 8 か月男児、1 月 9 日発症、回復。(2) 17 歳女性、1 月 11 日発症、(3) 35 歳男性、1 月 13 日発症、(4) 17 か月令女児、1 月 13 日発症、(5) 9 歳女児、1 月 15 日発症。(2)～(5)の人たちは全員死亡。 http://www.who.int/csr/don/2013_02_01/en/index.html
2013.1.31	●牛肉等の家畜衛生条件 米国及びカナダから日本向けに輸出される牛肉等の家畜衛生条件改正。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/sub3.html ●牛肉等の家畜衛生条件 フランス及びオランダから日本向けに輸出される牛肉等の家畜衛生条件締結。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/sub2.html#nl	
2013.1.29	●農水省プレスリリース 平成 25 年度 畜産・酪農関係事業の概要 http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/c_kikaku/pdf/130129-01.pdf	
2013.1.25	●警戒区域の牛、12 年末までに 1300 頭殺処分 原発から半径 20 キロの警戒区域(当時)に取り残された家畜を、所有者同意の上、殺処分する。県によると、事故前に区域内にいた牛は約 3500 頭。12 年末までに 1395 頭が殺処分され、ほかに多くの牛が餓死し、現在 150 頭ほどが野生化して生息。殺処分された牛の内部被ばく調査で、血液と骨格筋の放射性セシウム濃度に相関関係があると分かり、県は牛肉の放射性物質の濃度推計のため、一部で解体前に血液検査を行っている。	●香港 野鳥サーベイランスで H5N1 感染ユリカモメ(Black-headed Gull)1 羽発見。1 件 屯門区 ・症例数 :1・死亡数 :1 ※野鳥において実施されているサーベイランスプログラムにより検出。香港においては全ての家きん農場等で強化サーベイランスシステムを実施しており、感染の拡大は確認されていない。

	<p>●セシウム、母より子牛が高濃度 東北大(米オンライン科学誌プロスワン) 親子3組の放射性セシウム 137 の濃度を調べたところ、母牛は骨格筋1キログラム当たり平均 649 ベクレルだったのに対し、子牛は同 956 ベクレルだった。肝臓や腎臓など各臓器でも同様に、子牛の方が母牛よりも約 1.5 倍濃度が高い関係がみられた。母牛とその胎児の3組では、胎児の骨格筋や各臓器の放射性セシウム濃度は、母牛の約 1.2 倍だった。</p>	<p>●カンボジアパスツール研究所 鳥インフルエンザ。3 人の H5N1 感染症例を確認、2 名死亡、1 名回復。 <http://www.un.org.kh/index.php?option=com_content&view=category&layout=blog&id=65&Itemid=119></p>
2013.1.22	<p>●フードビジネス構想 8年で1.5兆円産業に 宮崎県単なる「素材供給基地」から脱却し、生産段階から消費者の需要を意識した商品(生産物)開発や、海外を含めた新たな販路開拓などの必要性を指摘 ●「農場HACCP推進農場」 中央畜産会 新たに8つの農場を「農場HACCP推進農場」の第5次指定農場に指定。今回の発表で「農場HACCP推進農場」は計 69 農場。 牛2農場、豚2農場、鶏4農場の計8農場。これまでの合計は牛 12 農場、豚 37 農場、鶏 20 農場の計 69 農場。 ◇第5次指定農場は次の通り(農場名(所在地)対象家畜・飼養頭数)。(JA.com 1月23日) ▽皆川牧場(千葉県船橋市)乳用牛・成牛 130 頭 ▽野村畜産木串農場(鹿児島県出水市)肉用牛・650 頭 ▽鈴木養豚場本場(愛知県田原市)・90 頭 ▽農事組合法人霧島高原純粋黒豚牧場(鹿児島県霧島市)・母豚 120 頭一貫経営(総数 1320 頭) ▽山田養鶏場銚子農場(千葉県銚子市)採卵鶏 ▽秀鶏園小南農場(千葉県香取郡)採卵鶏 ▽秀鶏園豊里農場(千葉県銚子市)採卵鶏 ▽平飼養鶏「歩荷」(愛知県稲沢市)採卵鶏</p>	<p>●エジプト HPAI サーベイランス Elham F El-Zoghby, et al."Surveillance on A/H5N1 virus in domestic poultry and wild birds in Egypt. "Virology Journal 2013; Jun 22;10:203 エジプトで H5N1HPAIV の全国規模サーベイランス。実施期間は 2009 年～2010 年で、2 万軒以上の養鶏施設を対象とし、各施設で最大 20 の排せつ腔、気管スワブを採取。H5N1 ウイルス遺伝子(PCR)陽性だったのは、商業用養鶏場の 0.1% (22,024 中 23)、裏庭養鶏農家の 10.5% (1,435 中 151)、生鳥市場の 11.4% (944 中 108)。H5N1 ウイルスは国内で年間を通して流行しており、特に春夏の暖かい時期に多いこと、陽性となった施設は Lower Egypt (下エジプト)と呼ばれるナイル川デルタ地帯に集中していること、アヒルとガチョウが飼われている施設で陽性率が高い。</p>
2013.1.19		<p>●ブータン 裏庭養鶏で 18 羽の鶏が死亡(うち 10 羽は 1 か月前に死亡)。952 羽殺処理。H5N1 確認。</p>
2013.1.18	<p>●米国产牛肉輸入停止措置解除 2012 年 11 月、米国产牛肉の中に、衛生証明書に記載のない牛肉(冷凍バラ肉 特定危険部位ではない)の混載確認で、カーギル社スカイラー工場(施設番号:86M)からの牛肉の輸入手を停止していたが、再発防止に必要な改善措置が確認され、当該輸入停止措置解除。 http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/130118_1.html</p>	
2013.1.17	<p>●宮城県稲わら生産農家 東京電力福島第1原子力発電所の事故による「風評被害」窮地 放射性セシウムが国の基準(暫定許容値)を下回っても取引を断られ、保管する場所も限界。稲わらは全国で年間110万トンが飼料利用され、このうち8割の90万トンが国産。</p>	<p>●インドネシア 2012 年 9 月以降飼育アヒル約 16 万羽が死亡。</p>
2013.1.14		<p>●ブータン 1 件の H5N1 アウトブレイク。76 羽死亡、832 羽 ●米国 ニューヨーク州ブルックリン地域の生鳥市場で、ノバリケン1羽で鳥インフルエンザウイルス遺伝子検出。ヘマグルチニン H5 遺伝子が rRT-PCR 陽性</p>
2013.1.11	<p>●農水省 米国(ニューヨーク州)において低病原性鳥インフルエンザ(H5亜型)の発生が確認されたことから、同州から日本向けに輸出される家きん及び家きん肉等の輸入が停止された。 http://www.maff.go.jp/aqs/pdf/h250111us.pdf</p>	<p>●米国 ニューヨーク州からの生きた家きん及び家きん肉等の輸入を停止。 生鳥市場において、鳥インフルエンザのサーベイランスの結果、低病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)の発生確認</p>

2013.1.9	<ul style="list-style-type: none"> ●農水省 日本からタイ向けに輸出される牛肉の認定処理施設(1施設)が追加された。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/th_beef.pdf ●農水省 日本からマカオ向けに輸出される牛肉の認定処理施設(2施設)が追加された。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/mo_beef.pdf 	<ul style="list-style-type: none"> ●カンボジア H5N1 アウトブレイク発生。裏庭養鶏。2,304 羽死亡、4,743 羽殺処理。
2013.1.8	<ul style="list-style-type: none"> ●農水省 日本からカナダ向けに輸出される牛肉の認定処理施設(1施設)が追加された。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/ca_beef_ex.pdf 	<ul style="list-style-type: none"> ●カンボジア H5N1 生鳥市場 Srey Viseth Horm, et al. http://wwwnc.cdc.gov/eid/article/19/2/12-1201_article.htm カンボジアパスツール研究所 P.Buchy グループの報告。 カンボジアで高病原性鳥インフルエンザ H5N1 感染が最初に確認されたのは 2004 年であるが、それ以降養鶏場での H5N1 アウトブレイクは継続して発生し、ヒトへの感染事例は 21 例報告されている。 政府は生鳥マーケットの鳥を対象としたサーベイランスを続けている。これはトリの排泄腔および咽頭スワブから鶏卵を用いてウイルス分離するものであるが、これまでほとんど H5N1 ウイルスが分離されなかった。そこで本研究では、生鳥市場環境サンプルから遺伝子検出することを試みた。 4 か所の生鳥市場から 7 週に渡って毎週、ケージや水、泥などからサンプリングし、合計 502 サンプルを採集した。そのうち 18%にあたる 90 サンプルから qRT-PCR で H5N1 遺伝子が検出され、10 サンプルからはウイルスも分離された。環境サンプルを高感度 qRT-PCR 法で検査する手法が、H5N1 サーベイランスに有効であると考えられる。 ●ネパール 裏庭養鶏で 10 羽死亡。
2013.1.6		<ul style="list-style-type: none"> ●メキシコ 高病原性 H7N3 アウトブレイク 2 件報告。740 羽死亡、284,015 羽殺処理。 ●ネパール 12/11-1/6 4 件のアウトブレイク。合計 3,189 羽死亡、5,278 羽殺処理
2013.1.5		<ul style="list-style-type: none"> ●メキシコ 高病原性 H7N3 アウトブレイク 2 件報告。740 羽死亡、284,015 羽殺処理。 ●ネパール 12/11-1/6 4 件のアウトブレイク。合計 3,189 羽死亡、5,278 羽殺処理。
2013.1.4		<ul style="list-style-type: none"> ●中国 四川省広元市 口蹄疫ウイルス(血清型:O 型) ※発症原因:不明 ・患畜概要: 豚(飼養数 124 頭・発生数 30 頭・死亡数 0 頭・淘汰数 124 頭・と畜数 0 頭
2013.1.3		<ul style="list-style-type: none"> ●メキシコ アグアスカリエンテス州の採卵鶏農場(138,000 羽)、H7N3(高病原性)、能動的サーベイランスにより検出